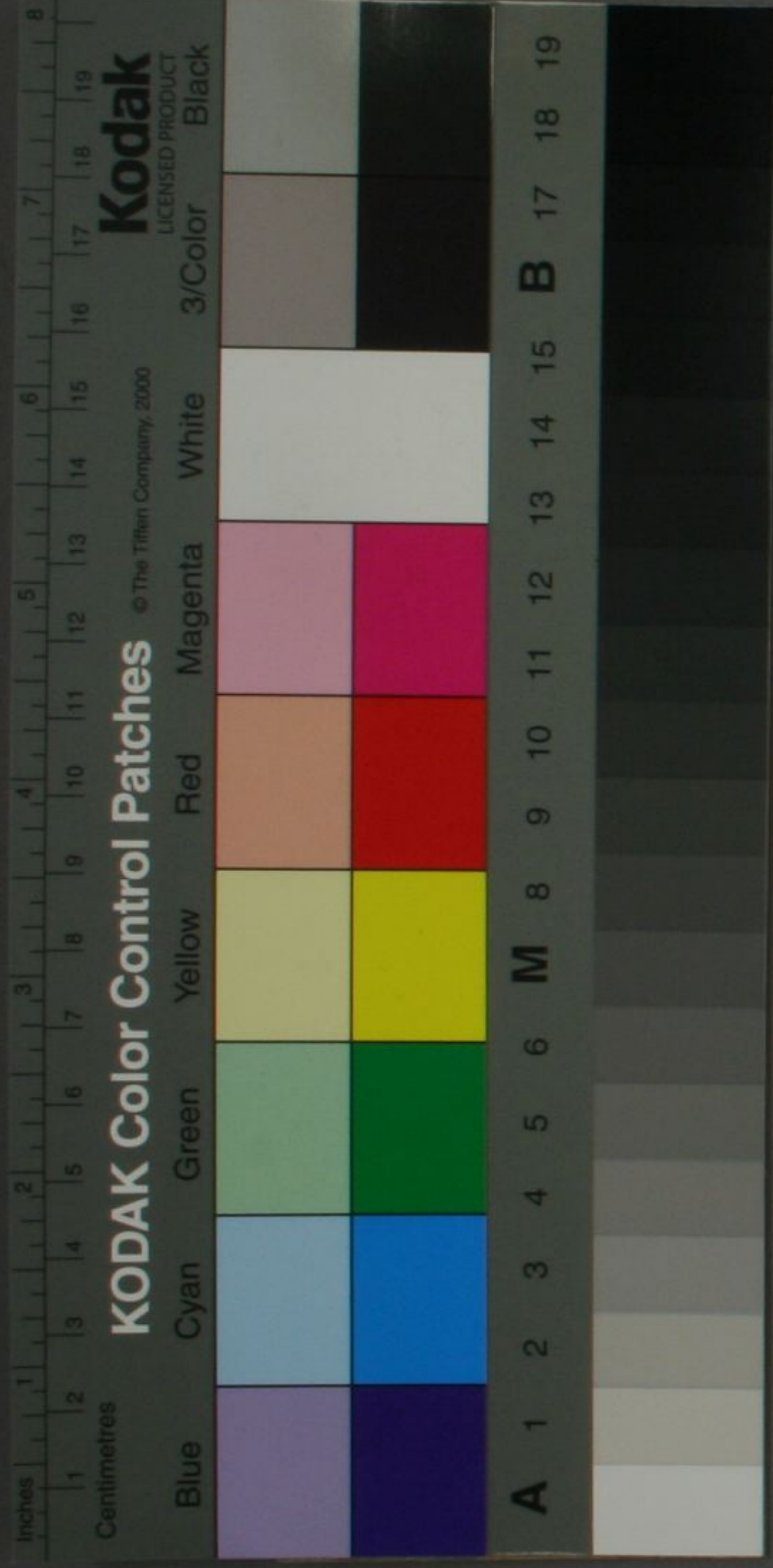
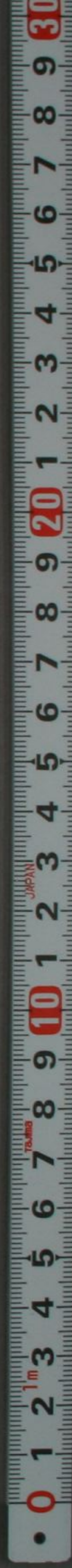




米國商況錄

全

347



A 976



米國商況錄

發題

是原書ハ米國ニル氏ノ著述ニシテ千八百七十七年同
國紐約府アツプレットン社ノ刊行ニ係レリ同國テヤ
レス、ランマン氏ヨリ黒田開拓長官ヘ寄贈スルモノニ
シテ長官之ヲ譯官ニ命シ翻シテ以テ海外ノ商況ヲ世
ニ公ニス

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

米國商況錄

緒言

我國ノ何人タルヲ問ハス須ラ了知スヘキ二三ノ事
項並ニ本邦出入ノ金額及ヒ其他ノ數量ヲ纂輯シ極テ
簡約ヲ旨トシ一モ洩ラスナキハ此編ノ主トスル所
ナリ今余輩ノ敢テ調査纂輯ノ勞ヲ辭セサル所以ノ者
ハ苟モ讀者ヲレテ是ニ由テ我力商船ノ一大重事ニ注
目セシムルヲ要スルナリ

凡例

余ハ此編ヲ左ノ三章ニ區別シ逐次之ヲ論述ス

第一章我政府力諸州ヘノ恩賜其他河渠開鑿及ヒ私立
會社保護等ノ如キ總テ邦内工業獎勵ノ為メニ莫大
ノ金額ヲ消費セルニ我通商貿易ハ反テ卓見アル他
邦人民ノ為メニ意外ノ損害ヲ被リタル事

第二章外國政府力煦々トシテ其高船ヲ保護スルノ景
況並ニ之力為メニ生スル利益ノ莫大ナル事

第三章我國通商ヲ保護スルノ方法宜キヲ得サル力為
メニ嘗テ損失セル所及ヒ現時尙ホ失フ所ノ金額並
ニ是等ノ損失ハ我國ノ製造、鑛事、農業、商賣及ヒ歲入
ニ一大關係有ルモノナレハ今後速ニ恢復セサル可
ラサル事

米國商況錄

米國

チャールズ・エス・ヒル著

第一章邦内通商ノ為メ合衆國ノ支給セル恩賜ヲ
論ス

千八百七十七年一月一日迄ニ我政府ノ諸州及七諸會
社等ニ(太平鐵道會社ニ支給セルモノ其過半ニ居ル)賜
ヘル地所ハ總計二億零八百万「エークル」一「エークル」ハ
二六坪余ニ當ル以上ニシテ之ヲ代金ニ積リ五千二百五十七
万五千百五十弗又其河渠開鑿ノ為メ給與セルモノ四
百四十万「エークル」余ナリ且ツ一ノ掘河ノ如キハ前五
六年間政府ノ之ニ支給セル正金總計三百二十八万八

千六百零三弗ニ至レリ
 市ノ費額ノミヲ以テスルモ更ニ海外貿易ヲ保護スルノ
 餘力アルヘキノ理ナシ然ルニ大藏省ノ報告ヲ見レバ
 我政府更ニ又太平鐵道會社ヲ補助スルニ公債証書及
 ヒ其年々ノ利子ヲ以テセリ其總計九千百六十三万七
 千九百二十八弗三十二錢、以上二項ヲ合スルキハ總計
 一億四千四百二十一万三千零七十八弗三十二錢是ヲ
 陸路交通ノ恩賜トス
 今斯ク莫大ナル恩賜ノ利不利ニ至テハ余輩敢テ喋々
 セヌ一ニ讀者ノ判決ニ委ヌ特ニ余輩ノ望ム所ハ今日
 我邦人中此類ノ國費ヲ極テ非議スル輩ノ陸路交通ノ
 斯ク庇蔽セラレ、ヲ觀テ海上交通ノ一事ヲモ漫ニ怠
 ルヲナキニアルナリ

右ノ外我三十一州及ヒ九箇ノ地方ハ郵便事務保存ノ
 為メ中央政府ヨリ年々若干ノ支給ヲ仰ケリ今其數ヲ
 左ニ掲ケ以テ參考ニ供ス

地名	金高	地名	金高
オハイオ州	六一三、三四〇 四九	テキサス州	三五三、一四六 二九
ミッソーリ州	三七九、六〇九 五九	イルリノイス州	三四二、七二三 九六
子ブラスカ州	三六八、二八七 五一	イヨーワ州	二四七、四三八 四八
アルカンサス州	二三三、〇八五 四四	インデアナ州	二〇二、四二八 四八
ミズリスシピー州	二三六、四一〇 〇〇	ウオルゲンシア州	二六八、二一三 〇九

我國中土ノ恩遇ヲ被ル斯ノ如ク其レ大ナリ而ルニ政
 府若シ其一部分ヲ取テ之ヲ汽船交通ニ支給セハ我代
 議士ハ議場又ハ日誌ニ於テ喋々政府ノ處置ヲ駁議シ
 騙詐ト名ケ不正ノ聚斂ト為スモノアルハ何ソヤ

我諸州八年々中央政府ノ金庫ヨリ斯ク巨額ノ支給ヲ受ルモ其償フ所ハ之ヲ海上交通ヨリスル海關稅ニ比スレハ其優劣如何ゾヤ諸州ヘ支給スルモノハ常ニ邦人ノ租稅ヲ増加シ海關稅ハ常ニ之ヲ減殺スヘシ三十一州及ヒ九箇ノ地方前年會計ノ不且ハ六百七十七万四千七百六十五弗四十一錢ニメ前十年間ノ不且ハ七千万弗以上ニ至レリ

今此數額ト前十年間ニ我政府カ海外貿易更張ノ為メ瀛船會社ヘ支給セル左ノ金額トヲ比較スレハ海外通商ニ支給セルモノハ實ニ僅少ト謂フヘシ

太平洋飛脚船會社ヘ支給ノ金額四百五十万弗合衆國及ヒ「^ラ」^ニ瀛船會社ヘ同斷百三十八万七千五百弗合計五百八十八万七千五百弗

今試ニ此五百八十八万七千五百弗ヲ政府ノ別途支給ノ金額ニ比較ス可シ別途支給ハ河渠及ヒ港灣修繕ノ為メ三千二百六十八万零三百四十弗鐵道開鑿及車道建築ノ為メ一千三百零六万七千二百三十五弗又政府ノ千八百七十六年支給ノ經費ト比較スヘシ經費左ノ如シ

年給	二八、二五七、三九五 弗	六九 錢
土人 インヂヤン ヘ	五、九六六、五五八	一七
邦内諸雜費	六六、九五八、三七三	七八
海軍	一八、九六三、三〇九	八二
軍事	三八、〇七〇、八八八	六四
合計	一五八、二一六、五二六	一〇

九テ此類ノ費額ハ前十年間ニ總計二十億弗以上ニ達

セリ

又昨年中鐵道及汽船ノ諸會社へ支給セル金額アリ
此ノ里程錢ト云フ計其額一里ニ蒸氣船車往復ノ里程ヲ
諸會社へ支給セル恩賜ナル可シ○本編記ル所ノ里
程ハ總テ英里ト知ル可シ
今内地及近海往復船車ノ里程錢ト太平洋往復汽船
ノ里程錢トヲ比較ス其割合左ノ如シ

蒸氣車	一ケ年里程總計	同支給セル金額總計	一里程ノ割合
合衆國太平洋線	七五一、二九六	三五一、〇〇〇	〇
中央太平洋線	六四〇、六四〇	二六、〇〇〇	〇
三州及河鐵道	二〇五三、七二八	三〇六、三四〇	〇
近海渡航汽船	七、四八八	六、〇〇〇	〇
三州及河鐵道及近海渡航汽船	一九、三四四	一〇、〇〇〇	〇
三州及河鐵道及近海渡航汽船	一九、三四四	一〇、〇〇〇	〇

三州及河鐵道及近海渡航汽船	一九、三四四	七、三六〇	〇	三八
三州及河鐵道及近海渡航汽船	五八、五〇〇	五〇、〇〇〇	〇	八五
三州及河鐵道及近海渡航汽船	三二、〇四〇	三四八、〇〇〇	〇	一〇八

右ハ唯郵便税ノ收額アルノミ

太平洋渡航汽船

太平洋飛脚船	八二一、一六〇	二四、〇〇〇	〇	〇
米國、日、英、汽船	一三八、〇〇〇	一、九六六	〇	〇

右ハ郵便税及歳入ヲ收ムルノミニアラス廣ク
商品ノ通路ヲ開キ且ツ時アツテハ海軍ヲ補助ス
ルニ足ル可シ

凡ソ内地ノ物産ヲ開進スルハ文明進歩ノ第一着ニシ
テ鐵道ノ決シテ忽ニスヘカラサルハ論ナク運河ノ如
キハ物産ノ輸出ヲシテ大ニ其勞費ヲ省カシムルモノ

ナレハ是亦實ニ緊要ナリ蓋シ迅速ノ運輸ハ鐵道ニ依
ルト雖モ便利ノ運搬ニ至テハ河船ヲ欠ク可ラサルナ
リ然リト雖モ我邦人ハ大國ノ大國タル所以ハ專ラ内
地商賣ノ如何ニアルノ一事ヲ知り未タ海外輸出ノ國
ノ繁榮ニ必要ナルヲ知ラサルガ如シ蓋シ自國剩餘ノ
物產ヲ販賣スルハ專ラ外人中ニアルナリ

我國海外貿易ノ為メニ奔走セル船舶内國船外ノ原
價ヲ計算スルニ大約二億弗合衆國鐵道ノ元價ヲ計
算スルニ大約四十六億弗昨年中海外貿易上輸出入
ノ物品原價總計十一億二千六百六十三萬四千二百七
十七弗全年國內商賣ノ為メ汽車ニテ運搬セル物品
原價總計百八十億萬弗

以上官報
告ニ係ル

是ニ於テカ余輩ハ一大真事ヲ觀得タリ何トナレハ本

邦鐵道ノ原價ハ之ヲ我港内投錨ノ諸船舶ニ比スルニ
殆ント二十四倍ノ夥キニ居リ其運搬スル物品ノ元價
ハ海外輸出入ノ物品ニ超過スルヲ殆ント十六倍ナリ
然ルニ税金ノ收額ヲ見レハ船舶ノ納ムル海關稅ハ内
地悉皆ノ稅額ニ過ルヲ三億六千萬弗以上ナリ而モ前
五年間船舶ハ頗ル不便ノ中ニ在テ充分其力ヲ逞フス
ル能ハサリシナリ

海關稅ヨリ收納ノ金額總計千八百七十一年ヨリ千
八百七十六年迄ノ分
十億零七千九百零七萬三千七百五十八弗十七錢内
地ヨリ收納ノ税金全年總計七億一千六百五十八萬
七千六百五十六弗差引海關稅ノ多キヲ三億六千二
百四十八萬六千六百零二弗十七錢

是ニ由テ之ヲ觀レハ我邦海外通商ノ利自ラ知ル可キ

ノミ且ツ我邦汽船及ニ海外運輸ノ事ニ至テハ不注意ノ甚シキト太平洋渡航ノ保護ヲ非議スルノ極テ愚ナル言ヲ待スレテ明ラカナルヘシ蓋シ海外通商ノ保護ハ宜シク邦内鐵道ト其保護ヲ一樣ニスベキナリ若シ我海外ノ通商ヲ奨勵シテ益進歩スルヲアラバ本邦海關稅ノ増加ハ果シテ幾何ナランカ

海外通商ハ邦人ノ營業ヲ増スノミナナラス邦人ニ代テ租稅ヲ納ルモノト謂フヘシ讀者刮目意ヲ茲ニ留ム可キナリ

第二章外國政府ノ保護政略ヲ論ス

今此第二章ヲ記スルニ當テ先ツ各國政府ノ諸會社ヲ保護スル大略ヲ舉テ讀者ニ告ントス

英國ニ於テハ多少ノ補助金ヲ十二線路ニ分テリ前十

年間ヲ調査スルニ毎年支給ノ金額左ノ如シ

年間	調査スルニ	一ヶ年總計英貨				全米貨			
		磅	シリング	ペンス	先令	磅	シリング	ペンス	先令
千八百六十六年	六年	八四五、四〇三	一三	〇〇	四	四二二、七〇一	八〇〇		
全	七年	八一五、九三三	一三	〇九	四	四〇七、九六六	〇〇		
全	八年	八〇八、五一七	一三	〇八	四	四〇四、五八六	〇〇		
全	九年	一〇九六、三三八	〇〇	〇六	五	四八一、六九〇	〇〇		
千八百七十一年	一年	一、二二一、五五二	〇九	一一	六	一〇七、七六一	〇〇		
全	二年	一、二一四、一四八	一二	〇四	六	〇七〇、七四一	〇〇		
全	三年	一、二三八、七〇〇	〇〇	〇〇	五	六九三、五〇〇	〇〇		
全	四年	一、一三三、〇五七	一七	〇九	五	六六五、二九六	〇〇		
全	五年	一、一三九、四六九	一九	〇八	五	六九七、三四六	〇〇		
全	六年	九七二、〇〇〇	〇〇	〇〇	四	八六〇、〇〇〇	〇〇		
全	七年	八八四、〇五四	〇三	〇四	四	四二〇、二六一	〇〇		

(以上官報ニ係ル)

今次巨額ノ用途及ニ海外市場ニ在テ我貿易ヲ障碍
スル勢力ヲ熟知セント欲セハ左ノ表ヲ觀ル可シ
海外交通ノ為メ英國政府ノ諸會社ヘ支給セル補
助金

航海線路	汽船會社々名	一ヶ年里程		英貨 米貨
		總計	一ヶ年支給 金額 ニ付	一里程
日本支那及 印度	ピーオー會社	六六四、八七八	四五〇、〇〇〇	三三八
濠洲	同	一四五、六〇〇	一三〇、〇〇〇	四一八
太平洋	太平洋汽船會社	一三七、五七六	一五、八九六	
南亞米利加	太平洋汽船會社		一一、二四五	
	ヲラシ止及テ 丹レー止河 會社	一八一、二〇〇	二、一四〇	
	王國郵便汽船會社		三三、五〇〇	

西印度諸島	同上	二九九、七六〇	二、〇〇〇	二九二
	米國「ハムホルグ」		一七、九一四	
合衆國	西印度及ニ太平洋		一一、七三三	
	「キウナルト」會社	一五〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	二三三
	「インマン」會社	一五〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	一一六
英領北亞米利加	北部日耳曼「ロイド」	一五〇、〇〇〇	六、九八一	
	「モントリアル」汽船會社		二四、三七五	
亞非利加	西岸 西亞非利加汽船會社	一四九、八八〇	九、三三五	
	東岸 「ピーオー」會社		一〇〇、〇〇〇	
	「ニオン」汽船會社		二八、〇〇〇	
	「喜望峯」		二〇、〇〇〇	
	「キユーナルド」會社	三八、五二〇	二五、〇〇〇	一二四

「リファッギミ」ベルミエ
及ニセントトウマ
以テ千八百七十五年同
條約書及ニ議事院往復文
書等ノ書類ニ據ル可シ
八百七十七年三月三十一
日以前以來ハ工費決シテ
給金額ノ稍減セルモノナ
キニアラズ然レモ是決シ
テ

使ラニ減スルニアラヌ多クハ皆抗敵既ニ覺レ後々

英國ハ此ノ如ク特別ニ莫大ノ補助金ヲ支給スト雖モ其保護スル所獨リ是ノミナラス自他ノ汽船會社ト定約スルニ父書及ヒ郵便物量目一「オンス」我ハ微弱ニ付ニ「セルリ」六「ペン」乃至一「セルリ」拾四錢ニ重ハ二シハ二錢ノ運賃ヲ拂フ可シトノ事ヲ以テセリ國ハ余ニ當ル「オンス」ニ付九リ三錢他ノ郵便物ナレハ一「オンス」ニ付一錢ノ運賃ヲ拂フ可シトナリ是極テ些少ニシテ僅ニ上表ノ金額ヲ見レハ英政府補助ノ寛裕ナル實ニ吾人ヲ驚カスニ足ルト雖モ本編掲クル所ハ極テ減少セルモノナリ今年ノ景況ヲ見ルニ尚ホ減少ノ勢アリ其故何ゾ「顧フニ英國人民ハ余輩米人ヲ陵駕シ海外貿易ノ一大戰場ニ於テ既ニ全勝ヲ得タルカ如シ我貿易ノ

軍旗ハ海上到ル處殆ト彼カ掃蕩スル所トナリ甚シキハ我港内ニモ其影ヲ見サルニ至レリ實ニ余輩米人ハ彼カ術中ニ陥リタリト謂フ可キナリ余輩米人カ常ニ内事ニ齟齬シ外事ヲ問フニ遑ナキノ機ニ乘シ英國人ハ恰モ我海上ノ保護軍ヲ散亂セシメ我船舶ヲ奪ヒ南海及ヒ東洋ノ諸港ヲ略取シ暗ニ壟斷ヲ私スルノ勢ニ至レリ今能ク之ニ抗敵スルモノハ獨リ佛ノ一國アルノミ現時英國政府カ佛國ノ船舶ヲ陵駕セン為メ支給スル所ノ補助ハ頗ル大ナリト謂フ可シ蓋シ本編第三章ニ揭示セル我政府年々支出ノ補助金ハ専ラ此失敗ノ為メニ強奪セララル、ノ貢金ト稱スルモ可ナリ

英國政府カ遠隔ノ殖民地ヲ庇蔽シ之カ来往ヲ保護ス

ルヲ觀ルニ勇進敢為能ク自ラ保存シ稍々本國ヲ利ス
ルニ至ルマテハ敢テ損失ヲ顧ミサルナリ

又英國カ支給ノ補助ヲ減少スルヲ觀ルニ概子其望ヲ
達シ而メ彼補助ノ稍々不用ニ屬スルヲ以テノ故ニアラ
サルハナリ

千八百七十年ニ英國ハ其半島及ヒ東洋汽船會社所謂
オーストラリア會社ト更ニ定約シ十年間之カ補助ヲ増加スル
ニ決セリ是佛蘭西及ヒ我國ノ支那線路ニ於テ英國ト
烈シキ競争ヲナセシニ由レリ此事ハ當時ノ議事院日
誌ニ載セテ詳ラカナリ

彼ノ大藏省ノ諸元老ト郵便局長トノ往復文書ヲ見ル
ニ現時英ノ政略ノ主トスル所ハ自己ノ航海線路中或
ハ外國ノ噸稅ニ苦シシ或ハ避ケ難キ失敗ニ遭遇セル

モノヲ保護シ他ハ其勢力ニ任セ毫モ干涉セサルニア
リ現ニ帝國郵便汽船會社ノ情況ニ付郵便局長「モント
ロース」公ノ意見書アリ當時「モントロース」公ハ斷然該
社保護ノ必要ナル半島及ヒ東洋汽船會社ト甲乙アル
ヲナカルヘシト謂ヘリ今其意見書ヲ撮録スル尤ノ如
シ

余ハ嘗テ半島及ヒ東洋會社ノ會計報告書中ニ該社
ノ航海事務ヨリ得ル所ノ金額ハ政府ノ補助金ヲ除
キ僅ニ尋常航海入費ノ八割五分ヲ償フニ足ルヘシ
トノ情況ヲ記セリ

今王國郵便汽船會社ノ景況ヲ觀ルニ千八百六十四
年ハ其最繁昌ノ時ナルヲ以テ政府ノ補助ヲ除キ其
真ニ得ル所ノ金額ハ入費ノ九割ヲ補フニ足リシト

雖モ翌年ハ八割五分ニ減シ其次ハ七割九分ニ下リ
今年ニ至テハ僅カニ入費ノ七割ヲ償フニ足ラサル
ヘシ云々中略

以上二會社ノ窮乏スル所以ハ世ノ不景氣ニモ由ル
ヘシト雖モ多クハ佛國ノ諸會社カ非常ノ保護ヲ受
ケ之ト頡頏スルノ故ナルヘシ

佛國政略ノ果シテ空シカラサルヲ見ルニ且ルヘシ
ハ數葉ノ後ニ詳カナリ

二會社孰レモ歲入ノ大半ハ正金貨幣運搬ノ事ヨリ
得ル所ノ收額ナリシガ取利源モ一ハ近來佛國諸會
社ノ頡頏ニ由リ一ハ世上正金貨用途ノ方向俄ニ變
スルノ故ヲ以テ頗ル涸渴ノ勢ニ至レリ云々中略
而メ「モントロース」公ハ王國郵便氣船會社ノ嘗テシ

ト、トーマスニ於テ颶風ノ為メ破船セル損亡ヲ補助ス
ヘシトノ旨ヲ建議シ終ニ千八百六十三年該社ノ繁榮
ト近年ノ景況トヲ比較セリ

本年^{千八百六}十三年ノ情況ヲ觀ルニ該社ハ假令ニ補助ノ
金額ヨリ六万磅ヲ減殺スルモ尚ホ能ク八分以上ノ
利益配分ヲナスヲ得ヘシ保險資金ヲ別ニスルモ又
千八百六十四年ニハ定約變更ノ為メ其補助ノ減少
スル真ニ六万磅ナリシモ該社營業ノ利益非常ニ大
ニシテ通常ノ金利ヲ拂ヒ尚ホ一割九分ノ利益分配
ヲナシ而メ其保險資金ヨリハ別ニ五分ノ利益分配
ヲナセリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ本年^{千八百六}十四年ハ假令尚ホ十萬
磅ヲ減殺スルモ必ス八割ノ利益ヲ分配スルヲ得ヘ

（保險資金ハ算入スルヲ要セス）

今年ニ至テハ之ヲ千八百六十四年ニ比スルニ該社ノ利益減少スルヲ十五万二千磅ノ數ニキニ及ハリ是殆ト一割七分ノ利益分配ヲナスニ足ル可キノ金額ナリ

而テ後「モントロース」公ハ今若シ該社ノ損亡ヲ顧ルナク其自滅ニ任セナハ英國ハ更ニ又他ノ會社ト定約セサルヲ得ス是多クハ此機ニ乘シ恣ニ利ヲ射シト欲スルモノナレハ英國ノ損亡ハ到底在来ノ損亡ヨリ甚シカルヘシトノ卓見ヲ論述セリ

抑モ英國政府カ千八百三十七年以來年々歳々支給スル所ノ補助金ハ將タ何ヲ以テ償ヒ得タルカ郵便税ヨリスルカ否是等ハ其十一ヲ補フニ足ラス且之ヲ以テ

償却スルガ如キハ初ヨリ期セサル所ナリ然リト雖モ英ノ貿易ハ是ニ由テ榮ヘ英ノ人民ハ是ニ由テ富ミ英ノ海軍ハ是ニ由テ其功用ヲ加ヘ事々皆殆ト執政者ノ望外ニ出タリ蓋シ其費ス所ハ實ニ巨大ナリト雖モ其得ル所モ亦勝テ數フ可カラサルナリ

今若シ實益如何ヲ確知セント欲セハ千八百年ヨリ千八百四十年迄ノ英國輸出物ノ原價ト千八百四十年補助事ハ千八百三十七年ノ頃ニ始レリ以降千八百七十年迄ノモノヲ比較セハ利益自ラ分明ナラン

人武ハ問ハン何故ニ英ノ官吏ハ更ニ報勞ヲ求メスレテ斯ル英斷ノ處置ヲナスカト是レ深ク怪シムニ是ラズ英ノ商務所ハ政府ノ一局部ニシテ之カ總理タル者ハ商船ノ甚タ貴重ナルヲ熟知スレハナリ

夫レ英ノ貿易視察ノ如キハ頗ル敏捷ニシテ其商船條例ハ毎ニ時機ニ投シテ之ヲ改正セサルナリ且英ノ法例ニ依レハ苟モ領事タルモノ全國ノ命脈タル海外通商ノ事ヲ熟知セサルヲ得ス今我合衆國ノ領事ヲ顧ルニ實ニ霄壤ノ相違ニシテ我領事ハ動モスレハ事ヲ法ニ托シ汽船會社及ヒ水夫等ノ眼ヲ掠メ瑣々タル事ヲ取扱フモ尚ホ之カ謝義ヲ求メ或ハ我商人ニ要スルニ不當ノ課金ヲ以テスルガ如キハ余輩ノ數聞知スル所ナリ海外諸港ニ投錨セル我船舶ノ不便ハ如何ソヤ余輩豈之カ為メニ長大息セサルヲ得ンヤ余輩ノ切ニ希望スル所ハ我政府ハ之ヲ以テ小事トシテ輕視スルナク名望ヲ有スル俊才ノ士人ヲ撰テ我領事ノ任ニ充ルニアルナリ

輸入品比較

英國原價總計

一、八六五、〇〇〇、〇〇〇市

合衆國全

四七六、〇〇〇、〇〇〇

輸出品比較

英國原價總計

一、一五〇、〇〇〇、〇〇〇

合衆國全

六五五、〇〇〇、〇〇〇

英國人口

三一、八五七、三三一

合衆國全

三八、五五八、三七八

右ノ比較ヲ見レハ余輩ヲシテ實ニ赧然タラシムルモノアラシ且英ノ輸出品ハ殆ント皆製物ナレトモ合衆國ノ輸出ハ大半土產ソウダ及ヒ未製品ウナクノ二類ノミナリ

佛蘭西ハ嘗テ海上ノ勢利ヲ志ル、ナク其貿易ヲ保

護スルノ敏捷ナル或ハ英國ノ右ニ出ルモノアリ汽船
會社ニ支給セル補助金ヲ見テ知ル可シ

航海船	汽船會社名	定約期限	一ヶ年里程	一ヶ年補助金	一里	付割合
日本支那及印度	シードス、メツサシス リ、マリーター、 自大正十一年七月廿五日 至大正十一年七月廿五日	二二五、八四四	八、五七三、〇二四	三、七九六	七、五九五	五
南亞米利加	全六十二年七月廿二日 全六十八年七月廿二日	九、九、五五二	三、六四四、〇〇〇	三、六六〇	七、三二	五
地中海	全六十二年十月一日 全六十八年七月廿二日	一四、六五三	四、三八二、二六三	二、九九〇	五、九八	五
全上	全七十二年八月一日 全八十五年七月廿二日	三六、〇一八	三七、九〇〇	一、〇四〇	二、〇八	五
西印度及「メキシコ」	全六十五年七月廿二日 全八十五年七月廿二日	一三八、四〇〇	三、九五三、二五七	二、八五六	五、七一	五
合衆國	全上	八二、六六六	二、三六、一三四八	二、八五六	五、七一	五
英ノ海峽	全七十二年十月一日 全八十四年九月廿二日	五、三三三	一〇〇、〇〇〇	一、八六八	三、七三	五
平均毎年ノ總計		七三、四三八八	二、三三八、八九二	三、一八五	六、三七	

右ハ條約書中ヨリ抄出スルモノニシテ千八百七

十七年九月一日ノ翻譯ニ係ル

表面掲ル所ノ金額ノ為メニハ英國巨万ノ補助モ尚ホ
其光輝ヲ失フニ至レリ而メ佛國人民中此非常ノ費用
ヲ愁嘆スルモノアリヤ佛國ハ共和政治ヲ主トスト雖
モ汽船保護ノ一事ニ至テハ甘シテ英國ノ軌範ニ循ヘ
リ是ニ由テ佛國ト我合衆國ト其間甚シキ差アルヲ見
ルヘシ

佛國ハ近年外患内憂ノ灰燼中ヨリ再燃シ其歳入ノ本
源ヲ認ルニ誤ルヲナシ今若シ佛國ノ製造者ニ其邦土
恢復ノ秘訣ヲ問ハ、佛人ノ意ハ其大藏省ヨリ郵便汽
船會社及ヒ太平洋汽船會社等ヘ支給セル一里程七弗
五十錢ノ割合ニ依テ永ク繁榮ヲ期スルニアルヲ知ル
可シ決シテ我怠慢ナル製造者及ヒ商賈ノ如ク小利ニ

汲々トシテ報勞ヲ旦夕ニ要スルノ類ニアラサルナリ
且佛國ノ獎勵スル所ハ獨リ補助金ノミニアラス尚ホ
二三ノ會社ノ如キハ殆ト之ヲ國立ノ安ニ置キ確乎動
カスヘカラサルモノアリ其他便宜ノ方法ヲ設ケ造船
ノ入費ヲ貸與シ年賦ヲ以テ償却セシクルノ事アリ
日耳曼ハ其汽船會社ニ約スルニ若干ノ補助金ヲ以テ
シ貿易ヲ保護スル頗ル厚ク航海規則ノ如キハ實ニ其
宜キヲ得タリト謂フヘシ

左ニ抄録スルハ北部日耳曼聯邦ノ法例ナリ亦以テ其
國人ノ商船ト海軍トヲ視ルノ心情ヲ知ルニ足ルヘシ

第五十三條日耳曼聯邦總テノ舟人及ヒ機關師其他
船面等ハ國民軍ノ外平時ノ兵役ヲ免ス

第五十四條聯邦諸國總テノ商人ハ一團ノ商船隊ヲ

ナス而メ政商船隊ハ船舶噸數ノ調査法及ヒ積載ノ
制限並ニ航海免狀等ノ事ヲ裁定スルヲ得ヘシ六六
伊太里ハ其汽船會社ニ支給スルモノ八百三十二万二
千七百六十リ即チ我百六十六万四千四百零四弗ニシテ
其他諸船路拂フ若干ノ郵便稅ヲ以テセリ

魯西亜ハ蒸氣船諸船路ニ報勞トシテ概チ航海毎ニ一
里ニ付二リブル即チ一弗四拾錢許ヲ給セリ尤モ其
内或ハ定額ノ補助金ヲ給スルモノナキニアラス
澳西太里亜モ報勞トシテ航海毎ニ一海里ニ若干ノ金
額ヲ支給セリ

丁抹ハ其都府コーペンハーゲンヨリアイスランド迄
航海線路ヲ補助セリ
日本ノ如キモ外人無情ノ風波ヨリ其船舶ヲ救護スル

ヲ知レリ今ヲ去ル僅ニ二年我支那線路ノ一支即チ橫濱及ヒ上海通ヒノ船舶ハ三菱汽船會社ノ烈シク頡頏スル所トナリ非常ノ損亡ヲ受ケ之ガ為メ他ニ遁逃シテ別路ヲ求ルノ勢ニ至レリ當時日本政府ガ此線路ヨリ外船ヲ攘フガ為メ三菱會社ヘ支給セシ所ノ金額ハ頗ル多ク現時猶ホ三菱會社ハ此線路航海ノ為メ毎年二拾五萬弗ヲ受領セリ故ニ今日至リ我船舶ハ獨リ橫濱香港ノ二港ヲ經ルノミ唯能ク此ニ抗拒シテ内海ノ港市ニ進入シ貨物ヲ載歸スルヲ得ルモノハ僅々本國ノ補助ヲ有スル英佛ノ兩國アルノミ

日本輸出品ノ一割七分ハ我國ニ來リ其五割五分ハ英國ニ歸ス

日本輸入品ノ四分ハ我國ヨリ輸シ其六割五分ハ英

ヨリ輸セリ而ルニ英ノ日本ヲ距ル反テ六千里ノ遠キニアリ

廣ク世人ヲシテ商業ノ道ヲ知ラシメタルハ往昔ノ西班牙是ナリ若シ當時西班牙人ガ航海ヲ保護スルノ厚キニアラサレハ我米國成立ノ滯延スル幾百年ノ後ニアルモ未タ知ル可ラサルナリ此際ニ方テ西班牙ノ東奔西馳海外諸國ヨリ載歸セル貨物ハ幾千万ナルヲ知ラス現今衰運ニ属スルカ如シト雖モヒリツピン諸島航海ノ如キハ猶ホ之ヲ保護セリ
荷蘭陀ハ東印度及ヒ地中海ヘノ航海線ヲ保護セリ其印度洋汽船會社ノ如キハ船舶製造ノ為メ十五ヶ年ノ定約ニテ更ニ若干ノ補助ヲ受ケタリ
右ノ如ク現今ノ活潑世界ハ皆攷々トシテ大海中ニ勢

利ヲ競フト雖モ獨リ我令衆國ハ永遠ノ大計ヲ知ラス
因循姑息固陋ノ航海法ヲ墨守シ十五年ノ久シキモ曾
テ活劇場中ニ見サルモノ、如シ

英國日耳曼及ヒ佛蘭西ノ如キハ現今十線路ノ汽船亦是

莫大ノ補助ヲ受クヲ以テ南亞米利加ナル巴西ト交通スト雖モ

我令衆國ニハ之ト来往ノ汽船アルナシ嘗テ我内地及

ニ沿海ノ諸港ニ該地ヨリ貨物數百万ヲ輸入スル一線

アリシモ我國執政者ノ淺見ナルガ故ニ忽チ其命脈ヲ

絶チ加之狂愚ノ政略ヨリシテ殆ト米國ノ商船ハ破滅

ノ勢ニ至レリ

故トーマス、タイルストーン君カ紐約府ノ商法會議所

ニ代リ千八百六十四年ニ我商船ノ事ニ付國會ヘ呈シ

タル意見書アリ其書ニ曰ク

余ハ己ニ齡七旬ヲ過クト雖モ尚ホ余カ存命中ニ組

約及ヒリオデジャ子ノ口間並ニ桑港及ヒ支那間ニ汽船

線路開設ノ舉ヲ目撃センヲ希望ス且又之ヲ第一

着トセハ余輩ハ漸ク歐洲及ヒ其他ヘ我線路ヲ擴ム

ルヲ得ヘシ云々中略

目今ノ有様ニテ余輩ハ徒ラニ英國人ノ利スル所ト

ナレリ請見ヨ現今「リオデジャ子」ノ商人等ハ支那或

ハ「カルコット」産ノ物品ヲ要スルニ直チニ我紐約府ニ

就テ之ヲ需ルカ決シテ然ラサルヘシ此等ノ物品ハ

我紐約府ニ於テモ頗ル廉ニ得ラルヘク且ツ品柄モ

歐洲ノモノト優劣ナシト雖モ如何セシ英國及ヒ巴

西間ノ英船ハ時機ヲ誤ルヲナク常ニ往復スルヲ以

テ注文ノ紐約府ヘ未タ達セサルニ既ニ現品ノ歐洲

ヨリ商人ニ向テ来ルノ便アリ豈我紐約へ需ルモノ
 アランヤ是唯「リオデジヤネーロ」ミナラス總テ英國政
 府カ賢明ノ政略ヲ以テ設置セル郵便汽船往復ノ便
 ヲ有スル港市ノ景況ハ到處皆然ラサルナニ云々
 此時ニ當テ我政府ハ頗ル卓見ノ處置ヲナシ我國及ヒ
 巴西間ノ汽船線路ヲ補助スルノ舉アリシモ今日ニ至
 テハ物情全ク之ニ反シ余輩ヲシテ慨嘆已ムノ期ナカ
 ラシメタリ政府ハ功績ノ一時ニ顯ハレサルニ倦ミ或
 ハ財政ノ真理ヲ誤解シ遂ニ前數年間巴西亞細亞ノ兩
 線路ヘ支給セル些少ノ補助モ之ヲ廢止スルニ至レリ
 是ヲ以テ巴西ノ線路ハ今既ニ絶エ獨リ亞細亞線路ノ
 ミ非常ノ刻苦ヲ以テ僅ニ餘喘ヲ今日ニ保ツヲ得タリ
 此景況ニテハ我郵便物及ヒ旅人ノ巴西ニ行カント欲

スルモノハ道ヲ英ニ取ルカ然ラサレハ帆船へ乗スル
 ノ外他ニ術ナカルヘシ且巴西一億一千二百五十万弗
 ノ輸出品ハ專ラ他邦人民ノ手ニ落テ其九千五百万弗
 ノ輸入品モ我邦人ノ直チニ之ニ與カルヲ得ス何トナ
 レハ我巴西ヨリノ輸出入品ハ悉皆英ニ入リ英ニ出テ
 迂回ノ道ヲ取ラサルヲ得サレハナリ加之途上ノ困難
 日子ノ遷延其他内外ノ費用ヲ計算スレハ我國ノ不利
 果シテ如何ソヤ是皆我議政者カ思慮モナク此線路ヲ
 絶滅セルニ由ラサルハナシ

「リヲデラアラタ」及ヒ「アマゾン」兩大河ノ灌ク處ハ地味
 膏腴ニシテ頗ル物産ニ富マリ而モ我國ハ之ト貿易ノ
 意ナキモノ、如シ

且「アルゼンチン」列國

南亞米利加ニアリ

如キハ前年ノ輸入六

千万弗ニシテ其輸出スル所ノモノ五千万弗ナリ此内
過半ハ英佛兩國トノ取引ナリ
ハエチシカール 南亞米利ノ輸入ハ四百五十万弗ニシテ
其輸出モ五百万弗ニ下ラス而テ之ト通商スル所ノ者ハ
専ラ英日ノ兩國ナリ
智利 南亞米利ノ輸出入各三千五百万弗ニ下ラス而テ
之ト通商スル者ハ専ラ英佛日ノ三ヶ國ナリ
魯西亞ノ輸入ハ三億弗ニシテ其四割ハ日耳曼ヨリシ
三割二分ハ英國ヨリス輸出ハ二億六千万弗ナリ内日耳
曼へ行クモノ二割英國へ行クモノ五割ナリ
濠洲ハ二億三千四百万弗ヲ輸入シ二億三千八百万弗
ヲ輸出ス其三分ノ一ハ英ニ行キ餘ハ悉皆英ノ属地ニ
歸ス

印度ハ二億二千百万弗ヲ輸入シ二億八千九百五
十万弗ヲ輸出ス之ト通商スルモノハ専ラ英支那及ヒ
日本ノ三ヶ國ナリ
亞非利加ハ唯好事家探討ノ地ニシテ他ニ用ナキカ如
シト雖モ現今商賣頗ル繁榮ノ勢アル濠洲ノ如キモ往
時ニ在テハ野蠻ノ情態曾テ亞非利加ト異ナルヲナシ
然レハ則チ亞非利加ノ忽チ變シテ商賣熱鬧ノ地トナ
ルナキヲ保センヤ亞非利加現今ノ商賣ヲ區分スル左
ノ如シ
アルゼリヤノ輸入ハ三千八百五十万弗ニシテ輸出
ハ二千八百七十万弗ニ下ラス其五分ノ四ハ佛ニ行
キ餘ハ西班牙土耳其及ヒ英國ニ歸セリ
喜望峯ノ輸入ハ二千九百万弗ニシテ輸出ハ二千二

百万弗ナリ之ト通商スルモノハ獨り英ノ一國トシ
埃及ノ商賣ハ一歲ノ總計一億五千万弗ナリ其七割
ハ英國トノ取引ニシテ餘ハ皆土耳其澳西太里亞伊
太里及ヒ希臘ノ收入スル所ナリ
西亞非利加ハ三千万弗ヲ輸入シ八百万弗ヲ輸
出ス之ト通商スルモノハ專ラ英ノ一國ナリ
曩キニ一氣船會社ノ企業ニ由リ嘗テ亞米利加洲ノ中
部ヨリ我邦ノ收穫セル利益ヲ顧ミ保テ以上ノ諸國商
賣ノ現況ヲ考フレハ此企業ハ獨り我邦人ノミナラス
廣ク世上一般ノ利益ヲ謀ルモノト謂フヘシ何トナレ
ハ現今各國ノ商賣ハ將ニ中亞米利加ヲ中心トシ之ニ
輻湊セントスルノ景況ナルカ故ニ東西ノ大洋ニ來往
ノ便ヲ設クルノ舉ハ固ヨリ大勢ノ然ラシムル所ナレ

バナリ又該社カ彼我物産ノ收額ヲ考ヘ彼ト有無ヲ通
シ大ニ我國ヲ裨益スル所以ハ本編ノ附録中中亞米利
加商賣ノ一項ヲ見テ知ルヘシ
果シテ然ラハ今日ハ是我邦旅行商賣ノ為メニ如何ナ
ル好機會ナルゾ我邦政黨ノ何タルヲ問ハス同心協力
米船ヲ以テ東西ノ航海ヲ再興シ之ヲ永遠ニ保存シ我
邦ヲシテ長ク洋中ニ雄視セシムヘキノ秋ナラスヤ
且夫レ事ヲ興スノ地ハ頗ル豊カニシテ敢テ之ヲ拒ム
モノアルナシ政府若シ此地ト往復通商ノ舉ヲ補助セ
ハ隨テ得ル所ノ利益ハ即チ政府ノ利益ナラン且我邦
輸入ノ物品ハ輸出ノ物品ヲ以テ償ヒ得ヘク目下心痛
ノ一事タル金貨濫出ノ患モ忽チ痕跡ヲ絶ツニ至ルヘ
キナリ

徒ニ我政府現今苟且ノ處置ニ依レハ我商賈ノ損失ハ勿論農家礦夫製造者及ヒ銀行ノ如キモ皆為メニ損害ヲ被ラサルヲ得ス

我邦ハ真ニ事業ヲ以テ誇ルニ足ル可キカ蓋シ人才ヲ養成スルト百般ノ機械精妙ノ發明及ヒ技藝ヲ獎勵スルトノ事ニ至テハ頗ル見ルニ足ルヘキモノアリ獨リ如何セシ不幸ニシテ經濟ノ真理ヲ識ラサルヲ以テ機械發明技藝等ノ如キモ遂ニ其用ヲ逞ウスル能ハサルナリ

○第三章合衆國損益論

此章ニ於テ余輩ハ我合衆國ノ商船保護ヲ主張シ本論ノ局ヲ結ブベキナリ

我邦ノ地勢ヲ考フルニ東西ニ大平大西ノ兩洋ヲ帶ヒ南ハ墨西哥ノ大灣ニ面シ内地ノ河流概シ皆爰ニ注クヲ以テ内地ノ高賈ト雖モ廣ク世界ノ貿易ニ與カリ之ヲ利潤ヲ享クルハ沿海ノ市民ニ異ナラス故ニ我商賈ハ特ニ全國ノ力ヲ以テ之ヲ保護ヲ爲サベルヘカラス況ヤ我ニ對抗スル英佛ノ兩國英佛ニ比スレハ稍微カノ抗敵國多シト雖モ姑ク略スハ確乎不拔ノ志ヲ以テ世ノ貿易ヲ網羅シ我邦ノ利潤ヲ取テ其掌中ニ收メントスルノ勢アルニ於テヲヤ

我北西ノ地モ大小許多ノ河渠合シテ墨西哥灣ニ入り

湖水湖是ナリ近傍ノ地モ亦堀河ヲ大西洋ニ通スルノ便アリ是等ノ河渠堀河ノ如キ若シ苛税ヲ除カハ皆廉價ノ運漕ヲ得ヘシ〔附録中運輸ヲ保護スルノ要ヲ説明セル一段ト参照スヘシ〕

我國天然ノ地勢ハ運輸ノ便ニ富ミ内地ノ貨物ヲ海濱ニ送致スル極テ易シト雖モ更ニ之ヲ外國ニ輸出シ遺滞ナカラシムルハ實ニ緊要ノ事タルヘシ今之ヲ圖ルニ一箇人ノ資産ヲ擲テ之ニ供スルモ涓滴ノ滄溟ニ瀉クカ如ク何ノ益カアラシ蓋シ全國ノ利益ヲ謀ルニハ又自ラ其道アルヘキナリ

左ニ掲クル所ハ前十年間支那線路航海ノ成績ヲ示スモノナリ亦以テ汽船補助ノ我歳入ヲ利スル一斑ヲ窺フニ足ルヘシ

千八百六十七年ヨリ同七十六年六月迄凡テ九年六ヶ月間桑港ニ於テ受取リタル輸入税ノ増額及ヒ同年間費用ノ補助金ヲ政府歳入ノ増額ヨリ引去リ其剩ス所ノ金額ヲ掲ク

(基)		千八百六十七年		千八百六十八年		千八百六十九年	
第一	桑港ニ於ル海關税ノ増加	弗	金	弗	金	弗	金
第二	諸收入並ニ証印税	三、五、〇〇〇	〇〇	四、五、〇〇〇	〇〇	六、〇、〇〇〇	〇〇
第三	郵便税	三、五、五、六〇	〇〇	九、九、九〇	〇〇	一、五、三、二七〇	〇〇
第四	諸船舶ノ消費セシ石炭税	七、〇〇〇	〇〇	一〇、〇〇〇	〇〇	一、五、〇〇〇	〇〇
第五	穀積税	八、三、二、五〇	〇〇	一、一、三、八五〇	〇〇	一、六、〇〇〇	〇〇
合計		五、三、八、八一〇	〇〇	六、七、六、三七五〇	〇〇	六、一、〇、三、二七〇	〇〇
汽船補助ノ金額		三、三、三、三三三	三三	三、三、四、一六六	六六	六、七、五〇〇	〇〇

(其三)		千八百七十年		全		七十二年		全		七十四年	
六五〇、〇〇〇	〇〇	一三〇、〇〇〇	〇〇	五三九、七七〇	四五	五九六、五三七	七三	三三九、二八五	五七		
一二、〇〇〇	〇〇	一〇、〇〇〇	〇〇								
二一、二八五	〇〇	一九、五九六	〇〇	六、三二九	六二	二八、二六九	八二	三一、二〇五	三六		
一七、〇〇〇	〇〇	一九、〇〇〇	〇〇								
一六、五五五	〇〇	一九、〇七五	〇〇	五、八四七	八二	七、四二九	一七	五、九四二	七四		
七六、八四〇	〇〇	一、一九七、六七	〇〇	五五、一九四	七八	六三、二二六	七二	三七六、四三三	六七		
五〇〇、〇〇〇	〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇〇		
以上合計		八、一八四、四六六		三、〇八		九		四			
千八百七十五年		六ヶ月間		七十六年六月三十日終了							
八、一八四、四六六	一〇	二九五、二六九	〇九	五、四六六、三〇八	九	〇	四				

二五、六九六	〇五	一八、六七九	三六	一七九、九三	二一
五、五一〇	九五	四、二一二	三三	一〇〇、二八三	〇一
八四二、六五三	一〇	三、一八、一六〇	七八	五、九七六、五二六	一六
五〇〇、〇〇〇	〇〇	二五〇、〇〇〇	〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇〇
歳入ノ増加補助金ニ超過ス				一、四七六、五二六	一六
右ノ表ニ據レハ太平洋郵便汽船會社力我國ニ與フル					
真ノ功績如何ヲ察スルニ且ルヘシ汽船交通ノ為メ合					
衆國入額ノ増加ハ補助ノ金額ヨリモ常ニ多ク桑港ノ					
入額ノミニテモ惣補助金ニ超過スルヲ實ニ一百万円					
以上ナリ然ラハ則チ該線路ニ支給スル補助金ハ我政					
府ノ全損ナリト云フハ其誤リナルヲ證スヘキナリ					
千八百七十年四月廿一日驛通局長ノ報告書中ニ言ヘ					

月 石 史

ルヲアリ支那線路ノ諸帳簿ニ就テ察スルニ諸稅收納ノ金額ハ日ナラスシテ汽船ノ補助金ヲ償ヒ尚ホ餘リアルニ至ルヘシ是レ甚見易キモノナリト前表ニ據レハ局長ノ言果シテ空シカラサルヲ知ル又桑港ニ於ル前十年間毎歲ノ結果ヲ互ニ比較スヘシ

千八百六十五年(千八百六十六及七十七年ノ報告書ナシ)輸入品ノ價額六百十七万三千十壹弗ト同七十七年ノ價額三百四十万八千五百八拾壹弗トヲ比較スレハ五倍以上ノ増加アリ又千八百六十五年(千八百六十六及七十七年ノ報告書ナシ)輸出高壹千貳百八拾壹万四千六百九拾四弗ト同七十七年ノ價額貳千八百八拾六万七千五百六拾四弗トヲ比較スレハ二倍以上ノ増加アリトス

桑港ニ於テ輸出入ノ増加大ナリト雖モ紐約港ノ輸出入爲ニ

減スルヲナク反テ輸入ハハ割ニ劣リ増シ輸出ハハ割ニ劣リ増セリ故ニ増加ノ利益ハ合衆國一般ニ波及セリト

此ニ由テ觀レハ近來出版ノ著書我政府ノ保護政略ヲ非トスルノ論ハ其當ヲ得サルヲ知ルヘシ

支那線路(費拉地費及ヒリバプール)ノ一新線路ヲ除ケハ米國ノ汽船航海ハ只此一路アルノミノ事業ハ桑港ノミニテ現時一歲一億弗以上ノ取引ヲナセリ

蓋シ該事業ノ此ニ達スルヲ得タルハ容易ノ事ニアラス線路開通ノ際亞細亞東印度及ヒ濠洲地方貿易ノ途上ニ英佛ノ大敵世界無比ノ汽船ヲ造リテ我行路ヲ遮ギリ且當時我國ニ於テハ造船ノ術未タ進歩セザリシ力之ト鋒ヲ交ヘ漸ク今日ノ域ニ至ル其困難實ニ少クナラサルナリ爾來造船ノ一事ハ紐約州ノロー氏及

ヒ「ペンシルバニア」州ノ「チエストル」氏等が刻苦ニ由テ
大ニ進ミ且費拉地費州ノ「クラム」父子「デラワール」州「ワイ
ルミントン」府ノ「ハルラン」及「ホルリ」ング「ウォル」ス社中及ヒ
「ブウセイ」ジョンズ其他造船諸大家ノ力ニ由テ頗ル面
目ヲ改メ今日ニ至テハ米製ノ船舶ヲ以テ世界中最も
堅牢且美麗迅速ノモノトナスニ至レリ
余輩ハ我商人等カ最初微力ニシテ大敵ト競争シタル
景況ヲ熟察セシメンカ為「尤」ノ表ヲ作り英佛兩國カ我
商船ヲ壓倒セントシテ自國ノ船舶ニ支給セシ莫大ノ
資金ヲ示サント欲ス

世界中三大商賣國ヨリ海上事務ニ與ヘタル補助
ノ比較表

(其)	航海線路	汽船會社	國名
-----	------	------	----

	支那及日本	太平洋郵便汽船會社 半島及東洋汽船會社 シ、デス、メスセザリー、マリータイム	合衆國 英國 佛蘭西
	濠洲	太平洋郵便汽船會社 半島及東洋汽船會社	合衆國 英國
	中央及南亞利加亞度	ロイヤル、メイ パシフィック、ステーム、エス、會社 シーメス、セザリー、マリータイム、 シ、グランド、ツラン、ス、アトラ、ラン、チ、ク	英國 佛蘭西 合衆國
	英領「コン」バ、バ、島	太平洋郵便汽船會社	合衆國
(其)	定約期限	政府ノ補助金 一、五三、六〇〇 二、二五〇、〇〇〇 三、三八〇	外國政府ノ補助金 一、九六四、六〇四 二、八〇〇
	十ヶ年	六六四、八七八	

廿四年 千八百八十一年迄	一四六、五三三	一、七、一、四、六、〇、四	八〇	七、九、九	〃
	二二六、二〇〇				
	一四九、六〇〇	六五〇、〇〇〇	〇〇	四一八	六五〇、〇〇〇
	三六七、九二〇				
	四八〇、九六〇	九三〇、四三五	〇〇		
廿七年 千八百八十八年迄	九九、五五二	七二八、八〇〇	〇〇	七三二	〃
廿九年 千八百九十年迄	一三八、四〇〇	七〇九、六五一	五〇	五七一	六、四、九、八、八、六、五
	七三、四〇〇				

前十年間英國及ニ合衆國、補助毎歳、金額比較表

年 度	英 國	合 衆 國
千八百六十七年	四、〇七九、九六六	三三三、三三三
	弗	弗
		大平洋郵便
		汽船會社
		合衆國及ニ

全 六十八年	四、〇四七、五八六	四一六、六六六	一五〇、〇〇〇
全 六十九年	五、四八一、六九〇	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十年	六、一〇七、七六一	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十一年	六、〇七〇、七四一	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十二年	五、六九三、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十三年	五、六六五、二九六	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十四年	五、六九七、三四六	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十五年	四、八六〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
全 七十六年	四、四二〇、二六一	二五〇、〇〇〇	三七、五〇〇
合 計	五二、二三八、八四七	五、八八七、五〇〇	

五百萬ト五千萬トハ甚シキ相違ナラスヤ歟ニ因テ觀
レハ僅々ノ歲月我政府力支給セシ些少ノ補助ヨリシ
テ俄ニ大利益ノ顯レシヲ望ムノ不理タルハ辨ヲ俟

スレテ明ナリ

驛通局ノ報告ニ據レハ千八百七十六年六月三十日ニ終レル一ケ年間

驛通局ノ費額總計		三三、二六三、四八七	五八
同入額總計		二八、六四四、一九七	五〇
差引不足		四、六一九、二九〇	〇八

前章ニ於テ船舶へ給與スル補助ハ政府ノ損失ニアラサル所以ヲ辨セリ

支那線路ハ其海關稅入額ヲ以テ同年間ノ補助金元高五拾万弗ヲ償ヒ尚利子トシテ拾万弗ノ金額ヲ大藏省ニ納メタリ前表ト參照スヘシ蓋シ前條ノ不足ハ皆此省ヨリ支給スルヲナルヘシ又アラジル線路モ同年間

補助金ノ元高三万七千五百弗ト尚ホ餘分ニ拾万弗ヲ同省ニ納レ置キタルヲ以テ前條ノ不足ハ此二口即チ六拾四万七千五百弗ヲ差引カハ全ク三百九拾七万七千七百九拾弗八錢トナルヘシ然ラハ此莫大ノ損失ハ何レヨリスルカ三十一州及ヒ九箇ノ地方郵便事務ハ我政府正味ノ損失ナルヘシ編未附録ト參照スヘシ此損失ハ暫ク閣キ我政府カ前十年間我邦ノ郵便物通送ノ為メ外國船へ拂ヘル金高十年間ノ通送錢總計三百四十二万七千七百八拾三弗四拾七錢同年間我太平海線路へ支給ノ金高ハ四百五十万弗ナリ内國船へ支給セル金高ハ固ヨリ外國船へ拂ヘル金高ヨリ多シト雖此更ニ内外ノ關係ヲ熟考スルハ四百五十万ノ金ハ極メテ少ナリ且前年ノ計算ヲ取テ比較スヘシ則チ

彼ノ抗敵ニ對シテ太々緩慢ナルヲ知ルニ足レリ
合衆國ヨリ外國ノ汽船線路ヘ千八百六十七年附與シ
タル補助ヲ示ス又此諸線路ハ各本國ヨリノ補助ヲ受
ルモノナリ

會社ノ名	本國	船	路	外國ノ補助金	合衆國ノ補助金	合衆國ヨリ得ル金
キウナルド會社	英	紐約ヨリ	リバプール	四〇〇,〇〇〇.〇〇	四三,六二七.七九	二,九五三.五二
ハムボルク・アメリカン	日耳曼	全	ハムボルク	郵便税	三八,八六三.三一	七二〇
北日耳曼ロイド	全	全	サウサンプトン	全	二八,六八〇.五一	四二,九八八
リムマン	英	全	リバプール	全	二四,八七四.八五	一,五〇二.八〇
カナダ	線全	全	全	一二,一八七.五〇	三,六〇三.〇五	一,三一四.九
アンコル	線全	全	グラスゴー	郵便税	二二,四六九.〇	
茅ドラス・マトラン・テック	佛	全	ハーフル	四七,二六六.六〇	二〇,七六九.〇	

ホワイスター其他	英	全	リバプール	郵便税	一七〇,八九七.二	一一八四.〇
ニール・ランド	阿蘭陀	全	ロッテルダム	全	二九二	
汽船航海	線	全	ハムボルク	全	一七〇,五五七.〇	四一,二一六.三六
イェグル	線	全	全	一八,二八六.三四		
外國ノ拂ヒシ金額總計						
合衆國ノ拂ヒシ金額總計						

人或ハ曰ク我國ノ損失ハ決シテ斯ノ如ク大ナルニア
ラス唯政府ハ歳入トナルヘキモノヲ失フノミト豈其
レ然ランヤ我國ノ損失特ニ此ニ止マルニアラス其拂
出セル數千万弗ハ固ヨリ我損失ニシテ加フルニ千八
百五十年ヨリ同六十年ニ至ル迄外國貿易ニ關係セル
我船舶積載ノ増加ハ六割ナリ又其前三十年間ヲ觀ル
ニ每十年平均五分ノ増加ナリ此際ニ方リ我商賣ハ各

國中最盛ナリシモ千八百六十年以降我船舶ノ積載
ハ次第ニ減シ本邦運漕商賣ノ七割五分ハ我船主ノ手
ニ落サルニ至レリ

余輩米人ハ外國ノ線路ヲ補助スルモ我船路ノ進歩ヲ
希ハサルモノニ似タリ

前年中我國ト外國トノ取引ヲ見ルニ千八百七十六年
輸出入共ニ拾壹億二千百六拾三万四千二百七拾七弗
ナリ而メ物貨ノ運賃乗客ノ船賃トシテ諸船舶ヘ拂ヘ
ルモノヲ凡ソ其一割ト積ルキハ此金一ヶ年壹億千二
百拾六万三千四百二拾七弗七拾錢ナリ此ヲ十ヶ年ニ
積ルキハ拾壹億二千百六拾三万四千二百七拾七弗ナ
リ前ニ云ヘルガ如ク我國運漕商賣ノ減少ハ七割五分
ナレハ此金額ノ七割五分ハ亦我國ニ歸セスニテ他ニ

出ヘシ此高八億四千百二拾二万五千七百七拾五

錢是ヲ我國十ヶ年間ノ損耗トス此金額ハ年々三拾万

カニマルヲ得ヘシ(附録ヲ見ヨ)

此巨大ノ金額ハ我資本ニ乏シキ良民ノ用ニ供セラル

ヘキモノナリ若シ又之ヲ國債償却ノ用トセハ我戰争

公債三分ノ二ヲ減スヘシ英國ハ我政界ノ外國ヲ保護シ反テ自國ヲ顧ミサルヲ觀

テ必ス冷笑スヘシ

余輩ハ米國人ノ親カラ自國ノ繁榮ヲ他ニ移シ我各業

ヲ衰頹セシムルノ景況ヲ詳カニ論辨スヘシ

余カ所謂損失ハ曩ニ我路略ノ宜ヲ得サルカ為メ將サ

ニ失ハントスルモノヲ謂フニアラス現ニ矢ヒタルモ

ノヲ謂フナリ若シ又失フヲナクンハ我運漕商賣ヲ

利スルヲ許多ナラン又番頭手代トシテ使用セラルヘ

キ人員許多ナルヘク水夫船匠礦夫及ヒ力役者ノ衣食ヲ得ル者許多ナルヘシ而ルニ今日ニ至テハ此等ノ者都テ衣食ノ乏シキヨリ怨ヲ財主ニ歸シ暗ニ之カ至肉ヲ啗ハントスルノ勢アリ

我運送事業ノ衰頽セル景況ヲ知ラント欲セハ前二十年間内外船舶ノ運送シタル貿易貨物ノ價額ヲ比較シ其割合ヲ觀ルヘシ

千八百五十七年ニ紐約府ヲ出入セル物品中米船ノ積載セタルモノ二億三千九百五十六万五千六百拾壹弗外船ノ積載セタルモノ壹億四十三万四千六百三拾壹弗

千八百六十七年ニハ米船ニテ紐約ヲ出入セルモノ千三百三十一万三千三百三弗同外船ニテ三億七千八百八十

四万九千二百七拾四弗

千八百五十七年ニ米船ニテ我全國ノ諸港口ヲ出入セルモノ五億千弗同外船ニテハ二億千三百弗故ニ米船ヲ利スル一ニ倍ナレモ千八百六十七年ニハ其割合左ニ變セリ

米船ニテ二億九千弗外船ニテ五億八千弗故ニ外國ノ船舶ヲ利スルモノ二倍ノ夥シキニ至レリ

邦人ノ惰慢ニ由テ大西洋ノ商賣ハ全ク米人ヨリ外國人ノ手ニ歸シタリト謂フヘシ而テ前十年間ノ終ニ方テハ我商賣ノ増加スル壹億八千万弗アリシモ其外船ヲ利スルモノヲ見ルニ其割合頗ル大ナリ

千八百七十七年我全國ノ諸港口ヲ出入セル物貨中米船ノ積載セタルモノ二億八千万弗同外船ノ積載セタ

ルモ、七億七千万弗

千八百五十七年来二十年間ニ米船ノ價額減スル一割五分外船ニ在テハ其價額増加スル一割二十六割一分ナリ

米船ノ積載ハ年々ニ減シ外船ノ積載ハ年々ニ増加セリ〔附録ト参照スヘシ〕

九テ儉約ヲ口實トシ汽船補助ノ事ヲ蛇蝎視スルノ輩ハ瞋々中ニ自國ノ繁榮ヲ妨害シ本人ノ活路ヲ閉塞スル者ナリ加之敵ニ給スルニ數百万金ヲ以テスルハ至愚ノ人ト謂フヘシ

合衆國ノ商賣ヲナスニ外國ノ水夫ヲ使用スルハ自國人ヲ使用スルヨリモ多キ一ニ倍ニ過キタリ是亦何タル奇怪ヲ報國心ナルソ〔附録ト参照スヘシ〕人動モスレハ

大西洋ハ漸ク其商賣ヲ太平洋線路ノ為メニ奪ハレントスルノ勢アリト謂フハ我國ノ將サニ盛ナラントスル廣大ノ内地ヲ有セルヲ忘レタルモノ、如シ我國何レヲ問ハス一所一場ニ於ル商賣ノ進捗ハ普ク全國ノ事業ニ一新ノ活力ヲ與ヘ一般ニ新利益ヲ起ス一疑テシ余今廣ク全國ニ就テ論スルニ大西洋ヨリシテ支那若シクハ濠洲ヘノ航海線ヲ維持スルモノハ如何ナル會社アリト雖モ蓋シカノ及フ所ニアラサルヘシ何トナレハ大西洋ヨリ支那等ヘノ線路ハ遠キ一三千英里之ニ及シ太平洋ヨリスルモハ近キ一三千英里ナレハナリ故ニ大西洋ノ線路ヲ盛ニセント欲セハ政府大ニ之ヲ救護ヲナサ、ルヘカラス

凡テ彼此ノ論ナク兩大洋及ヒ墨西哥灣ニ就テ若シ運

輸ノ便ヲ増シ我製造者及ヒ輸出入ヲシテ容易ニ貨物
 ヲ外國へ轉販スルヲ得セシメハ大西洋ト雖モ其商
 賣豈太平洋ニ下ランヤ兩洋共ニ我貿易ヲ盛ナラシメ
 一人一國ノ利益ヲ増加シ余輩米人ヲシテ再ヒ海上ニ
 雄視スルヲ得セシムヘキナリ我邦人ハ此等ノ事項
 ニ向キ了知セント欲スルノ意果シテアルカ
 海港ニ於テ輸入物貨價額ノ檢査ヲ受スシテ直ニ内地
 ニ輸出スルヲ得ルノ特權ハ我西部ノ大都市ヲシテ
 其實物貨上陸ノ市港ト異ナラシムルヲナクシテ我内
 地商賈ノ營業ヲ益盛ナラシムルモノト謂フヘシ本編
 附録ト參照スヘシ又商務局ノ報告ニ千八百七十五年
 シント、ロリー^モニ在ル一都市ノ外國へ積ミ出セル貨物
 ハ量目總テ二万八千五百七十四噸ニテ翌年中外國ヨ

リ輸入セル貨物ハ原價		外國ニ於ケル價		三百拾万弗ニシテ其	
稅額ハ百七拾四万八千四百七拾四弗ナリ		又千八百七十六年「チカゴ」州ニ在リ一輸入セル貨物		ハ原價三百四拾万七千八百九拾九弗ニシテ其稅額ハ	
百四拾五万四千七百二拾五弗ナリ		我貿易物品ノ通路ヲ知ラント欲セハ左ノ一品ニ就テ		見ルヘシ「チカゴ」商務局報告書中ヨリ抄出	
廻船ノ方向	チヤパン (茶名)	綠茶	紅茶	カラチオン及 コーチオン	合計
桑港ヲ經テ	一、五九				一、五九
組約府ヲ經テ	一、三五六	一、八七七	一、〇八九	二八九	四六二
「スエズ」ノ堀河ヲ經テ	五八七		三、〇六七		三、六五四
桑港ヲ經テ	一、五九				一、五九
組約府ヲ經テ	一、三五六	一、八七七	一、〇八九	二八九	四六二

我太平洋ノ線路ハ失敗スルモ妨ナキカ將タ外國ノ船
舶ハ興フルニ好意ヲ以テスヘキカ

我内地製造者ニシテ米船ヲ以テ其貨物ヲ送ルヲ得ル
ハ其利スル所頗ル大ナルヘシ千八百六十九年國會ノ
委員ヘ呈セル卓出ノ造船家某ノ書ハ實ニ此事ニ適切
ナル言ナレハ今之ヲ左ニ抄出入其書ニ曰ク目下西部ノ
曠原及ヒ南部ノ木綿產出ニ資本ヲ出セル輩ト雖モ不日
紐約ノ商賈ト共ニ全國ノ商賣ニ注目シ熱心ニ之ヲ保
護スルノ勢ニ至ルヘシ且若シ英佛兩國間戰端ヲ開ク
カ如キアラバ常テ英國カ我内憂ニ乘シ我ヲ苦シメ
タルカ如キ合衆國民ハ必ス其機ニ投シ英ノ商賣ヲ凌
駕スルノ勢ニ至ルヘシ英國ノ幅員ハ我紐約州又ハ「ペ
ンシルバニヤ」州ノ比ニシテ格別大ナルニアラス故ニ

若シ其商賣ノ權ヲ奪フアラハ國中空虚トナルヘキノミ云々
現今我法制官中貿易委員我國益ニ著眼スル稍深密ナ
ルヲ以テ我商船ノ全國利害ニ関スル甚大ナルヲ知ル
ト雖モ前五年間其委員過半ハ次一大重事ヲ以テ毫モ
喜戚スルヲナシ

蓋シ一國ノ實力ヲ組織セル元素ハ多シト雖モ其力ヲ
育スルノ著シキハ商船ノ右ニ出ツルモノナカルヘシ
苟モ勢力ト稱スヘキモノニシテ之カ範圍ノ外ニアル
モノナシ果シテ然ラハ何ニ由テカ我商船ノ補助ヲ以
テ不正不當ト駁スルヲ得ン

曩ニ合衆國ノ上院ニ於テ主張セル論ヲ見ルニ曰ク支
那及ヒ「アラビヤ」ノ線路ヲ救護スル十年ノ星霜ヲ經ル
モ米ノ商賣猶自立スルヲ得ス然ルニ之ニ永ク補助ヲ

與フルハ所謂富豪ノ會社ニ富豪ヲ襲フント欲シ徒ニ
政府ノ金庫ヲ傾クルモノナリト
夫ノ議政者タルモノハ農ヲ問ハス又公事師。政談家ヲ
問ハス目下數百萬ノ金額ハ空シク外國ノ船舶ハ給ス
ル運賃ト化シ前段ニ示スカ如ク徒ニ富豪ナル外國ノ
諸會社ヲ肥ヤシ又テ同袍ヲ損シ己レノ撰者タル諸州
貧民ノ活路ヲ梗塞スルヲ觀テ如何ナル見解ヲ下タス
ヤ將タ我國歲入ノ甚タ減スルニ就テ何等ノ説アルカ夫
ノ議政者ハ英佛兩國ノ人口ハ我ヨリ寡キモ之レカ法
制者タルモノ、前見明ナルニ由テ人民勞力ノ成果頗
ル大ニシテ愈繁榮ヲ致スノ勢ヲ觀而メ米人ノ歎々商
賣ノ不景氣ヲ訴ヘ器々職業ナキヲ嘆シ救助ヲ呼フノ
景況ヲ察セハ將タ又何等ノ説アルカ

顧フニ前五年間我國鐵船製造ノ技術大ニ進歩シ其費
用モ隨テ減スル所アリ今日ノ造船景況ヲ千八百七十
年ニ比スルキハ其間著シキ懸隔アリ故ニ今日ニ方テハ
必シモ英國ヲ以テ天下最廉ノ造船市場トナスヘカラ
サルノ勢アリ

又合衆國ニ於テ現今棒鐵細長形トナシタルモノ鐵溶解鐵ヲ砂製ノ型ニ流シ

廉價トナレルハ他ノ諸國ト異ナルヲナシ以前一噸ノ

價四十五弗乃至七十弗ナリシモ近來十八弗ニ下レリ

又銅石炭木材及ヒ機械ノ價隨テ減シ造船費用ノ五割

乃至六割ヲ占ル職工ノ手間代モ亦甚減スル所アリ附

錄ト参照スヘシ

近來龍動ノダビツトラオン氏及ヒ社中造船ノ一ヨリ

發兌セル小冊子中ニ合衆國ニハ鐵製ノ船舶ヲ製造ス

ル造船家一人モナシト是其實事ヲ誤レリ前年英ノリ
ヤルド君我國ニ來リテ我造船所ノ實況ヲ觀タレハ必
ハ自國ノ造船家ニ論スニ其想像ノ誤リナルヲ以テス
ヘシ
英國ニ於テ鐵船一隻ヲ造ルニ其費用一噸ニ付正金ニ
テ十三磅十シルリニ乃至十四磅ナリ我國ニ於テモ同
額ノ紙幣ヲ以テ同様ノ船ヲ製ス可シ是レ現ニ我造船
者ノ廣告スル所ナリ故ニ之ヲ米貨ニ積ルギハ一噸七
十弗ト六十七弗五十錢ノ割合ニ當レハ彼我ノ差一噸
ニ付二弗五十錢ナリ蓋シ千八百七十年ニハ未タ斯ク
廉價ナラサリシモ今日ニ至テハ決シテ彼ニ及ヒ難シ
トスル所ニアラス且我國ニ於テ造製セル機關モ世界
中最モ精巧ノ地位ヲ占メタリ

然リト雖モ米國ノ商賣ニシテ能ク自立シ得ヘキヤノ
疑問ニ就テハ余輩亦疑問ヲ以テ之ニ答ヘサル可ラス米
國ノ商賣ハ嘗テ自立シタルヲアリヤ前設掲クル所ヲ
見レハ余輩ハ答テ否ト云ハサルヲ得ヌ且又何レヲ問
ハス九テ一國ノ商賣力嘗テ自立シタルノ例アリヤ前
編談事ニ關スル事項ヲ顧ルニ是亦否ト言ハサルヲ得
ス果シテ然ラハ今日我國商賣ノ衰頽セルハ他國ニ比
スレハ法制ノ干涉多キカ為メナラス蓋シ其足ラサル
ニ因ルナリ宜シク之カ保護ヲ厚ウスヘキナリ且我邦
カ汽船補助ノ為メ嘗テ消費シタル金額ハ一モ損スル
ヲナク既ニ若干ノ利子ヲ以テ還附セリ但利子ノ虧キ
ヲ憾ルニミ然レモ其虧キハ我大藏省ノ損失ニアラス
船主ノ損失ナリ船主若シ其資本ヲ托スルニ正直ノ人

ヲ撰ハサレハ欺カレテ獨其財ヲ失フノミ合衆國ハ尚
ホ之カ資本ニ由テ大ニ利スル所アルナリ
尙賣ハ歲入ヲ増シテ國幣ノ空乏ヲ補ヒ地主ノ租稅ヲ
減シ鐵船造製ノ爲メ百般ノ職工ニ産業ヲ與ヘ寒村ノ
樵夫鐵礦炭礦ノ役夫ニ至ルマテ各業ノ間ニ金融ヲ通
シ且我海軍ヘ有力ノ補助ヲ給シ緩急ノ際政府ノ命ニ
應ヒ直ニ事ヲ辦スルヲ得ヘシ

然ラハ則テ何等ノ處置ヲ要スヘキヤ惟フニ今我失フ
タル尙賣ヲ恢復セシニハ專ラ補助金ノミヲ以テ足レ
リトスヘカラス著手ノ法宜キヲ失シ從來ノ過失ヲ益
甚シカラシムルハ固ヨリ我輩ノ望ム所ニアラス故ニ
船舶ノ事ニ熟達シ且適宜斷行ノ權ヲ有スルノ委員ヲ
置キ之ヲシテ絶エス船舶ヲ監督シ諸規則ヲ調査セシ

ムルニアルナリ

又外國ト我國ト通信貿易ノ關係ヲ改良スルニアリ我
製造品並ニ土産ヲ賣與シ彼ヨリ我國必用ノ物品ヲ輸
入セントスルノ諸國ト更ニ締約シ彼我ノ懇親ヲ固ウ
シ共ニ利スル所アラシムヘシ

余輩ハ決シテ外國船（假令我國ニ於ル會社ノ有ニ係ハ
ルモノナルモ）ヲ以テ深切ニ我用ヲ達スルモノトセス
凡テ外國ノ旌旗ヲ翻セル船舶ハ我ヨリ若干ノ特典ヲ
受ルモ若シ其意ニ適セサレハ恣ニ我郵便物ヲ拒ムヲ
得ヘシ（英國ノ如キハ外船ヲ保護スルノ無益ナルヲ
知リ自國ノ船舶脆弱ノ際モ猶ホ外船ノ慮ナルヲ
ニ依頼セシ龜メテ其船舶苟モ眞實ノ議政者ニシテ談
ヲ補助シ成立セシメタリ）
事ニ就キ輕々觀察ヲ下タス可シヤ又一政黨ノ私言ヲ
聞キ之ヲ以テ信任スヘキ報知トナス可シヤ假令眞才

ノ人タルモ不正者ノ間ニ能ク成立スルモノハ未タ之アラ
ス

我人民ハ區々ノ僻説ニ沉溺セス宜シク説事ニ就キ正
非ヲ糾スヘシ而メ今後我船舶ノ事ニ公平ノ眼ヲ注ク
ヲ躊躇スルヲ勿レ

我人民ハ左ノ事跡ヲ回顧スヘシ

英國ハ我商船ノ保護ヲ抑奪シ殆ト孤立ノ勢ニ至シメ
シニアラスヤ英國ハ暗ニ我大西洋ノ商賣ヲ掌握シ其
人民ヲシテ我港市ヲ護衛セシメタリ是我人民ヲ不用
ニ置キ之ヲ凌辱スルノ舉動ナラスヤ我國ノ不利既ニ
斯ノ如シ尚ホ此上ニモ余輩ハ一國ノ一國タル所以ヲ
失スヘケンヤ我最後ノ船舶ヲ抛擲スヘケンヤ我太平
洋ノ商賣尚ホ且舉テ之ヲ英國ノ旌旗ニ屬セシムヘケ

ンヤ我國旗ハ東西ノ海上ヨリ卷テ之ヲ藏ムヘケンヤ
余輩人民ハ果シテ之ヲ甘スルカ

一方ヨリ英國ヲ顧ルニ其政策ノ前見アルト國民ノ熱
心ナルト理財ノ巧ナルトハ余輩ノ實ニ嘆稱スル所ナ
リ然リト雖モ獨立ノ商賣國タルヲ捨テ、外國ニ附庸
タルヲ願フハ理財上ヨリスルモ榮譽上ヨリスルモ余
輩一國民ノ思ヒサル所ナリ米國ノ議政者決シテ欺カ
ル、ヲ勿レ夫ノ儉約ハ我ヲ顧ミサルニアリトハ所謂
妖魔ノ甘言ナリ何トナレハ抗敵ハ常ニ我由斷ヲ窺ヒ
之ニ乘シテ益々其欲ヲ逞フスル所アラントスレバナ
リ

我積載ニ課スル苛酷ニシテ不正ナル聚斂ヲ發止スヘ
シ宜シク外國ニ準シ我商船ニ與フルニ賢明ナル保護

合計	六四、六三、五二〇〇	一、九三七、五三六	二、八〇、二八四二	七、四四、五〇七四六	五、〇五、七〇九六
公債發行ノ總高	六四、六三、五一二〇〇				
利子拂 _て 渡 _レ 未済ノ總高	一、九三八、七〇五三六				
利子拂 _て 渡 _レ ノ總高	二、五〇、七五七、〇九六				
合計	九六、七九、九一八三二				

州名

附典ノ年月日

鉄道ノ名

附典ノ境界内ニアル地所

附典ノ境界内ニアル地所

附典ニ專有ノ鐵道ヲ附典セル地所

千八百五十年ヨリ千八百七十六年ニ至ル國會ノ決議ヲ以テ鐵道築造ノ為メ諸州及_て諸會社ニ附典シタル地面ヲ示ス

千八百五十年

イルリノイスセントラル

モービル、エント、チカゴ

五九、九、〇五三

二五、九、〇五三

二五、九、〇五三

ミツシスレピー	千八百五十年 九月廿日	モーゼル、エノド、 オハイオ、リバド、	一〇〇、四六四〇	七三、七三〇	七三、七三〇
1	千八百五十六年 八月十一日	ワイツクス、エン マリ、デヤ、	四〇、四八〇〇	二〇、〇〇〇	一九八、二七
全	千八百五十六年 七月廿日	ゴルフ、エノド、 シツプ、アイランド、	六、五八〇〇	二〇、〇〇〇	四、一九五二八
アラハマ	千八百五十六年 七月廿日	モーゼル、エノド、 オハイオ、リバド、	二三、〇四〇〇	四、一九五二八	四、一九五二八
	千八百五十六年 七月廿日	アラバマ、エノド、 フロリダ、	四一、九五二〇	三九、四五二二	三九、四五二二
	千八百五十六年 六月三日	ヤルマ、ローヤ、 エノド、タルト、	四八、一九二〇	四四、〇七〇	四九、七四〇七
全	千八百五十六年 六月三日	クレーサ、エノド、 テシ、子ワ、	一三、二四八〇	六、七七八四	六、七七八四
全	千八百五十六年 六月三日	モーゼル、エノド、 アラバマ、	八四、〇八八〇	九、四一四五	五、四一四五
全	千八百五十六年 六月三日	アラバマ、エノド、 カフタ、ターザド、	八九、七九二〇	四六、一四五六	五、二一九九
全	千八百五十六年 六月三日	サウス、エノド、 ノース、アラバマ、	五七、六〇〇〇	四二、〇〇〇〇	四三、六七二〇
クオリダ	千八百五十六年 六月三日	フロリダ、 フロリダ、	四四、二五四二	二八、一九八四	八八、一九八四
全	千八百五十六年 六月三日	フロリダ、 フロリダ、	一六、五六八八	一六、五六八八	一六、五六八八
全	千八百五十六年 六月三日	パンサロー、エノド、 ジョーロ、デヤ、	一五六、八七二九	一七、五二二二	一七、五二二二

造ノ証跡明了ナラズト認ムルニ因リ一旦無効ニ歸
シタルモノナレバ未タ地面没収ノ運ヒニ至ラス國
會ニ於テモ別ニ着手スルナク其儘抛擲スルモノ
ナリ
又本ノ徵號ヲ附セルモノハ國會ニ於テ既ニ没収セ
シモノナリ

千八百七十六年六月三十日會計年度ノ終リニ至リ
國會ノ決議ヲ以テ鐵道築造ノ為メ諸州及メ諸會社
ニ附與シタル地面ヲ示ス (官報ニ據ル)

州名	附與境界内ノ地所	附與ノ境界内ヨリ 會社ノ受領セル地所	附與ニ專有ノ証書ヲ 附與セル地所
イルリノイス	二五九、五〇、五三	二五九、五〇、五三	二五九、五〇、五三
ミスシスシッペー	二〇六、二二四〇	一一三、七一三〇	九三、五一五八

アラバマ	三五七、九一二〇	二七〇、八一三五	二八三、二三〇九
フロリダ	二三六、〇一一四	一七六、〇四六七	一七六、〇四六八
ルイシヤナ	一五七、八七二〇	六六、〇四一一	一〇七、二四〇五
アルカンサス	四八七、八一四九	二七五、三一七一	二三六、八四九四
ミッソーリー	二九八、五二六〇	一九四、九一七五	一八二、四二五三
イヨーニア	六七九、五五二七	四二一、五三二七	三八五、五一二九
ミシシッピ	四七、二四八〇	三三四、三一二五	三二一、八一二九
インディアン	四八〇、八四三六	三五五、八四五二	二六二、五四八九
ミシッピ	九九九、二〇四一	七八七、六六三八	六四三、五五八二
カンサス	九三七、〇〇〇〇	四九四、七〇〇〇	四一七、六一五六
合計	五五七、一七〇、四一	三七五、四〇、八七	三三七、〇六二九
會社			
太平洋鐵道	一、五九四、八六、六六	一、五〇二、八七、六六	八三五、九四九一

總計

二、五二〇、三八〇七

一、八七六、五八五三

四、三九六、一二〇

内

返却地面附屬ノ無効トナレル地面
及國會於收没シタル地面ノ残リ

六八五、九五四四

四五六、九一二〇

四〇〇、六九九〇

残リ

二、〇八三、四二六三

一、八三二、六七三三

三八〇、五二五三〇

千八百七十六年六月三十日ニ至ルマテ運河敷通ノ
為ノ官有地ヲ附與セルノ左ノ如シ(測表局申報)

千八百二十七年

一九九、六七二九

千八百二十八年

八三、三八二六

千八百三十八年

一、五四三一

千八百五十二年

七五、〇〇〇〇

千八百六十五年

二〇、〇〇〇〇

千八百六十六年
合計

五〇、〇〇〇〇

四四〇、五九八六

昨年合衆國大藏省ヨリ郵便事務保存ノ為メ三十一
州及九縣ヘ支給セル補助金(驛遞局申報ヨリ抄出)

州及縣名

弗
明

州及縣名

弗
明

オハイオ

六三、三四〇四九

ルイシヤナ

一四、六三九二〇

ミシシッピ

三六、八二八七五

ミイスクンシン

一六、五四四九五

イルリノイス

二四、七二三九六

コロラード

一六、六七三九〇

イヨー

二四、四八八七二

ケンタッキー

一〇、一九六〇一九

アルカンサス

二五、三八四四五

フロリダ

九、八六〇九〇

アラバマ

二二、一〇一九二

南カロライナ

六、九六四七一

ジョージヤ

一九、九四二一五

デラワール

六、五七九〇九

北カロライナ	一八九、四五二、六二	ユータ縣	二八〇、六四一
ワシントン縣	一〇六、四六二、七五	子バタ	一二九、四七七、三九
コロンビヤ地方	八三、三四一、四〇	マリーランド	一二〇、九五四、一
アリゾナ縣	七八、六九〇、四	オレゴン	一〇九、一〇五、九四
インデアン縣		ミシガン	九九、五一四、五六
ミズソーリー	二七九、六〇九、九	西ヴァルチニア	九九、九七、七七
テキサス	三三三、一四六、九	カリフォルニア	八二、四二、三八
ヴァオルジニヤ	二六八、二一三、〇九	メーソン	七〇、四七七、五〇
ミズシスシッピ	二二六、四〇、一六七	ペルモント	六四、六六、六一
カンサス	二二四、三四七、二五	新メキシコ縣	一五、五二九、八六
インデアナ	二〇二、四二八、四八	モンタナ縣	九五、一六七、一一
テネッシー	一九六、〇七六、二八	アイダホ縣	八二、七六一、三
ミシッピ	一七〇、二一、六一	ダコタ縣	七〇、七六二、七〇

合 計

雜種ノ減額
残り

六六三、一八九、七八
五九、四二四、三
六、七四、七六五、四一

驛遞局ノ出費總計

全 收入總計

三三三、六三、四八
二八、四四一、九七、五〇
四六、一九二、九〇、八

補助ヲ受ケズシテ能ク自立スルモノハ僅ニ七州二縣
アルノミ

大藏省記事抄出

年度	関税	内国税	直税	官有地賣却	雜種	其他雜種	純入税額
一八九六	六四、二八、三三、五。			八九一七、六四四、九三		一一一六、一九。	七四、五六、六九、二四
一八九七	六三、八七、九〇、五。			三八二九、四八六、六四		一二五九、九二。	六八、六九、三二、五七
一八九八	四、七八九、六〇、九六			三、五一三、七一、八七		一、三九二、〇二九	四六、六五、五五、九六
一八九九	四九、九六、八四、三八			一、七五六、六八七、三。	七、〇九三、五七、七二	一、四五四、五九六、二四	五三、四八、六四、六四
一八九〇	五三、一八七、五一、八七			一、七七八、五五七、七一	一〇、〇〇八、〇〇	一、〇八八、五三〇、二五	九六、六四、六、七八三
一八九一	三九、五八、二、二九、六四			八七、〇六五、八五四	三三、六三〇、九。	一、〇二三、五一五、三一	四一、五、九三、三、五九
一八九二	四九、〇九六、九七、六二			一五二、二〇三、七七	六八、四〇〇、〇〇	九一五、一二二、三一	五一、九八七、四二五、四三
一八九三	六九、〇九九、六四、二四。			一六七、六一七、一七	六〇、二、三四五、四四	三七四、七九四、三八	二二、六九七、二九、九五
一八九四	一三、三一、六一、五二、九九			四七五、六四八、九六	二、一七四、一〇、一。	三、〇三三、一四〇、一二五	二六、四二、六七、一、六〇

（大藏省記事抄出）

一八六五	八四九二八二六〇六。	二〇九四六四二二五二五	一、二〇〇、五七三〇三	九九六、五九三三一	一、六八三、四四六八九	二五、四四一、五五六〇〇	三三三、七四六、五〇八
一八六六	一七九、〇四六、六五二、五八	三〇九、二六八、三三四二	一、九七四、七五四一、二	六六六、〇三一〇三	三八、〇八三、〇五五六八	二九、〇三六、三一四二	五五八、〇三二、六〇〇六
一八六七	一七六、四一七、八一〇八八	二六六、〇二七、五七七四三	四、二〇〇、二三三七〇	一、六三、五七五、七六	二七、七八七、三三〇、五五	一五、〇三八、五二二一九	四九、〇六三、四〇〇、二七
一八六八	一六四、四六四、五九九五六	一九一、〇八七、五八九四一	一、七八八、一四九八五	一、三四八、七一五、四一	二九、二〇三、六二九、五〇	一七、七四四、四〇三、五九	四〇、五六六、三八八、三二
一八六九	一八〇、〇四八、四二六六三	一五八、三五六、四六〇八六	七六五、六八五、六一	四、二〇〇、三四四、三四	一三、七五五、四九一、一二	一三、九九七、三三八、六九	三七、〇九四、三七四、七一
一八七〇	一九四、五三八、三七四四四	一八四、八八九、七五六四九	二二九、一〇二八八	三、三五〇、四八一、七六	一九、二九五、六四三、七六	一三、九四二、二一八、三〇	四一、二五五、四七七、六三
一八七一	二〇六、二七〇、四〇八九五	一四三、〇九八、一五三六三	五八四、三五五三七	二、三八八、六四六、六八	八、八九二、八三九、九五	二二、〇九三、五四一、八一	三八五、三二九、四四八、九
一八七二	二一六、三七〇、二八六七七	一三〇、八四二、一七七七二		二、五七五、七一四、一九	九、四一、二六三七、六九	一九、〇六〇、五一、二三	三七四、一〇六、六七、五六
一八七三	一八八、〇八九、五二二七〇	一、一三、七二九、三四一四	三一五、二五四五一	二、八八二、三一、三八	一、五六、〇五三、〇八九	一七、六六一、二七〇、〇五	三三三、七三八、二四、六七
一八七四	一六三、一〇三、八三三六九	一〇二、四〇九、七八四九		一、八五二、四二八、九三	五、〇三七、六六五、二二	一七、〇七五、〇四二、七三	二八九、四七八、七五五、四七
一八七五	一五七、六六七、七二二三五	一一〇、〇〇七、四九五五八		一、四一三、六四〇、一七	三、九七九、二七九、六九	一五、四三一、九一五、三一	二八八、〇〇〇、〇五一、一〇
一八七六	一四八、〇七、九八四六一	一一六、七〇〇、七三二〇三	九三、七九八八	一、一二九、四六六、九五	四、〇二九、二八〇、五八	一七、四五六、七七六、一九	二八七、四八二、〇三九、一六
一八七七	一三〇、九五六、四九一、七	一一八、六三〇、四〇、七八三		九七六、二五三、六八	四、五七七、六五八	一八、〇三一、六五九、四六	二八九、〇〇〇、五八六、六

年度	政費 及 雜費	陸軍費	海軍費	印度人入費	養老金	公債利子	通常總費
一八五六	三、五、三七、二九〇	三、九、四八、九六、八九	一四、〇、九一、七八、〇六	二、七、六九、四九、五五	一、二、九八、〇八、九五	一、九、五三、八二、三七	六、九、七、〇、五、七九
一八五七	三、六、五、五七、二、三九	一、九、二、六、一、七、四、一、六	一、二、七、四、七、九、六、八三	四、二、六、七、四、三、〇七	一、三、一、〇、四、三、〇、一	一、六、八、六、五、二三	六、七、九、五、七、六六
一八五八	五、七、四、四、四、三、〇、八	二、九、四、八、五、三、五、六、〇	一、三、九、八、四、五、五、一、〇、九	四、九、二、六、七、三、八、九、一	一、二、七、四、八、八、四、七	一、五、六、九、五、五、六七	七、四、一、八、五、五、〇、三九
一八五九	二、三、六、〇、二、九、五、一、四	二、三、一、四、三、八、二、三、八	一、四、六、四、二、九、八、九、七、三	三、八、二、五、〇、二、七、二、四	一、二、〇、三、七、八、二、九	二、六、八、四、六、三、九、六	六、九、〇、〇、九、七、六、七、四
一八六〇	二、七、九、六、四、三、四、二、二	一、六、四、〇、九、六、六、七、一、〇	一、二、九、一、四、九、六、四、九、六	二、九、四、九、一、九、一、三、四	一、一、〇、二、九、三、六、一、五	三、七、七、三、四、六、二	六、三、一、三、〇、九、八、三、九
一八六一	二、三、二、七、〇、〇、四、六	二、二、九、八、一、五、〇、四、四	一、二、四、〇、八、八、七、八、九	二、八、四、五、五、八、一、八	一、〇、三、六、〇、六、四、〇、六	四、〇、〇、一、七、三、三、六	六、六、九、四、六、四、八、九
一八六二	二、四、〇、八、四、九、一、二、六	三、九、四、五、六、八、四、七、三、六	四、二、六、六、二、七、七、〇、九	二、二、七、三、二、三、三、四、五	八、五、三、〇、九、九、四、〇、〇	一、三、一、九、三、四、四、五	四、七、四、七、六、一、八、八、九、一
一八六三	二、三、二、五、〇、九、五、三、九	五、九、九、二、九、〇、〇、八、三	六、一、二、九、六、三、六、四	三、一、五、四、三、五、七、一、一	一、〇、七、八、九、九、一、五、九	二、四、七、九、八、四、六、一	七、四、七、四、〇、八、五、一、七
一八六四	二、七、五、〇、五、九、九、四、六	六、九、〇、七、九、一、八、四、二、九、七	八、五、七、二、五、九、四、六、七	二、六、八、九、八、五、八、七、七	四、九、八、三、九、二、四、一	五、三、六、八、五、四、二、六、九	六、五、三、三、六、四、一、九、七

賃五錢ヲ加レハ都合拾七錢ニテ足ルベシ均シク小
麥一苞ヲ送ルニ一ハ五拾錢ヲ要シ他ハ僅ニ拾七錢
ノミ生産家ノ為メニハ損得ノ相違アルヲ三拾三錢
ナリ

現今ノ處ニテハ運河ノ運賃一時減少シテ「バツハロ」ヨ
リ紐約ニ至ルマデ穀物ハ一苞ニ付四錢小麥ハ一苞
ニ付三錢七厘五毛トナレリ此割合ヲ以テ算スレバ
「アルバニー」或ハ「トロイ」ニ達スルマテノ運賃ハ穀物
ニテハ一苞ニ付三錢内外ニシテ小麥ニテハ一苞凡
三錢七厘五毛ナリ而シテ「バツハロ」ヨリ「アルバニー」ノ
里程三百四十五英里間ノ穀物ノ河税九厘零六六ト
小麥一苞ノ河税壹錢零々三五ヲ各此中ニ算入スレ
ハ小麥ノ運賃ハ一噸ニ付壹帛五拾八錢トナリ穀物

ハ一噸ニ付壹帛四拾壹錢トナルベシ今若シ河税ヲ
廢セハ一噸ノ運賃ハ壹帛貳拾三錢ニ減少スベシ
此運河ハ複閘ヲ設ケ水量滿漲ノ時之ヲ用フルハ
日數二百十日間ニ於テ平均一千八百万噸ノ大量ヲ
運輸スルヲ得ベシ斯ル大量ノ商賣ハ恐ラク實地
ニ於テ行ハレ難シト雖モ若シ至良ノ方法ヲ以テセ
ハ未タ必スシモ此運河ノ能セサル所ニアラサルベ
シ今千八百万噸ヲ運輸スルヲ至大ナルヲ知ラント
欲セバ宜シク之ヲ海外ニ輸出スルニ當テ幾多ノ氣
船ヲ要スル歟ヲ思考スベシ此大量ヲ送ラントスル
ニハ各容積三千噸ノ氣船二十隻ノモノ日々走馳ス
ルモ三百日間ヲ要スベキナリ現時紐約ヨリ出帆ス
ル所ノ歐洲氣船ハ其數每週僅カニ二十隻ニ上ラサ

ルナリ

プロシデント、ウールシー氏が著述セル萬國公法中ニ
曰ク是ノ如キ國民ニシテ其富國ノ源ヲ閉鎖シ他ノ人
民ト交際ヲ謝絶スベキ歟又各國相互ノ義務ヲ盡シ有
無相濟フノ事ヲ一ニ他國ノ意見ニ任スベキ歟若シ然
ラズンバ運輸ノ便ハ至要ノ時ニ當リ國民ノ一權利ト
シテ要求スルモ決シテ不可ナルヲナシ云云

今日ニ在テ直接運輸ハ最モ必要ノモノナリ我國苟モ
奮發遠慮ノ二点ニ於テ他ニ讓ルヲナクンバ則我生産
及ヒ製造品ノ市場トナルベキ各國ニ向ヒ直接運輸ヲ
要求スルノ權利ハ固ヨリ我ニアリ此等ノ諸國ハ既ニ
我ニ貿易ヲ要求シタルニアラズヤ且我輸入品ヲ償フ
ニハ宜シク我輸出物ヲ用フベシ我運送ヲ舉テ之ヲ

他國ノ意見ニ任セ英國ノ貿易ヲ賴デ幾千万金ヲ運出
スルガ如キ都テ國ノ富源ヲ乾涸セシムルノ拙策ハ決
シテ用フベカラサルナリ

蓋シ英ノ貿易ニ依頼スルノ入費金貨ノ濫出多分ノ運
賃及ヒ船継ギ或ハ延滞ニ依テ起ル所ノ諸入費ヲ合算
スレバ直接運輸ノ為メニ備ヘ置ベキ至當ノ金額ヨリ
遙カニ超過スルナリ

我米國商業ノ昌榮セサル理由ヲ論ス

前ノ檢事長「エレポント」氏千八百七十六年紐約府商
法會議所ニ於テ演說セル畧ニ曰ク紐約府ノ商賈諸君
ヨ余ノ召サレテ内閣ノ員ニ加ハランカ為メ華盛頓府
ニ向テ此商勢繁忙ノ府下ヲ去リシハ己ニ一年前ニ在
リ當時諸君余ニ告ケテ曰ク目今府下ノ商況衰頹シテ

其業繁榮ナラサレモ秋ニ至ラハ其面目一変シテ舊時
ノ繁榮ニ復スベシト然ルニ昨秋又余ニ報シテ曰ク商
況今ニ回復セサレモ來春ニ至ラハ繁榮ニ復スベシト
今春余當府ニ來リタルニ諸君又曰ク春將ニ盡キント
スレモ商況未ダ回復セスト抑實地商業ハ如何ノ景況
ニシテ其衰頹ノ原因ハ何ナルヤ中畧既ニ商業ノ衰頹
スルハ其原因トキノ理トシ今之ヲ覓メサルベカラス
蓋シ財貨ヲ生出シテ昌榮ヲ増加スベキモノ一トシテ
諸君ノ有セサルハトシ礦山ヤ米穀ヤ人口ヤ健康ヤ人
力ヤ才智ヤ勉強心ヤ皆諸君ノ有スル所ナリ夫レ然リ
既ニ然ラハ恰モ全土ヲ包括スル館被ノ如キ譯者曰此
一語蓋シ此
被拜シ諺彼ノ不祥ノ原因ハ果シテ何ソヤ蓋シ商務ヲ
處置スル其方法宜シキヲ得サルニ由ル中畧諸君ノ所

有物品ノ價格ハ施政ノ良否ニ基キス譯者曰其價格ノ減
却セルハ抑何故ソヤ蓋シ施政其度ヲ失ヒ諸君ノ財産
ヲ保護スルノ正當ナラサルニ由ル云云
前ノ檢事長ハ諤々ノ正論ヲ演ヘテ商業貿易ノ衰頹ヲ
公明ナル法制ノ缺乏ト騙詬ノ收税トニ歸セリ
嗚呼誠ニ然リ彼ノ不正ノ收税ハ其害ノ及フ所廣大ニ
シテ實ニ名狀ス可ラサルモノアリ政府ノ金庫ヲ充實
ナラシムルコリハ寧ロ一般人民ノ勤勞ヲ利センカ為
メニ惜マス大金ヲ投スルヲ大ニ策ノ得タルモノト謂
フベシ蓋シ金庫ヲ充實スルハ後ヲニ執政者カ權カヲ
誤用スルノ媒タルニ過キサレハナリ
世上ノ面目更ニ一変シテ我商賣ヲ回復シ我生産ヲ保
護スルニ至ラハ國ノ昌榮ハ期セスシテ來ルベシ我國

ノ製造品ヲ本州ノ諸國及て亞細亞・亞非利加ノ兩洲ニ
輸出スルニハ直接運輸ノ方法ヲ以テスベシ必ス歐洲
諸大國ノ我ト競爭スル者ノ力ニ依賴スベカラス又其
船ヲ藉ルベカラス

我國ノ製造ハ決シテ世界萬國ニ劣ルヲナクシテ却テ
之ニ優ルモノ多シ故ニ我商賈ノ要スル所ハ唯法制官
ノ之ヲ庇保シテ機ニ投スルノ便ヲ得セシムルニ在ル
ノミ爰ニ之ヲ証明センカ為メ十月十七日發兌ノ龍動
「テレビグラフ」ノ社説ヲ鈔録ス其説ニ曰ク「マシネエスト
ル」ニ於テハ米國製綿布ノ需用漸ク増加シ又貴地^{貴地}費
及ヒ「コッホルグ」製ノ鍬^鍬又物ノ類ハ時トシテハ「シエツ
ヒルト」製ノモノヨリ人意ニ適スルヲアリ「ウオルサム」
機械製時器ハ「コベントリー」ノ時器製造ヲ廢スルノ恐

レアリ大西洋ノ對岸ヨリ革ノ輸入スルニ至リテ「ヘル
モンドセ」ノ革製造者ハ之ニ敵シ難キヲ明言シ紐約
商社ノ農具商牌ハ英國ノ鍬商其店前ニ掲ルヲ見ル而
シテ又英國海外ノ領地ヨリ龍動及ヒ「ホルミンハム」ノ
商社ニ委託セル注文中ニモ米國製ノ又物類アルニ至
レリ

英國ト比スルモ猶ホ且此ノ如シ然レハ則チ全世界ニ
及ホスノ難キニ非サルヲ知ル

中央亞米里加國ノ商況

中央亞米利加國ニ於テ前二十年間ノ盡力ヲ以テ大ニ
其商業ヲ開進シ世ノ重シスル所トナレリ其書中ノ條
目ヲ抄出シ且ニ証トナスベキ彼ノ有名ナル「カピタン
ジョン・エム・ドゥ」氏ノ比較統計表中ノ一項ヲ錄シ以テ

前二十年間同國商況ノ開進ヲ証明ス

咖啡 輸出高

千八百五十七年「ゴータマラ」	一九〇〇
千八百六十年「ゴータマラ」	一三〇〇〇〇
本年「ゴータマラ」	二〇一八九六
本年「コストリカ」	二五五七〇五〇
本年「サルバドル」	一〇九九二九九七
千八百七十七年總計	五六六二九三四三
十年前賣買高總計	一五六〇〇〇〇

此ニ由テ之ヲ觀レハ本年輸出高増加ハ二十五割ノ夥
 キニ至レリ生産ノ額ニ此ノ如キ非常ノ増加アリシハ
 主トシテ太平洋郵便氣船會社(千八百四十八年會社創
 業ノ際將ニ破滅セントシタル「氏」政府ハ當年分補助金

ノ全額ヲ前渡シタルヲ以テ纔ニ免ル、ヲ得タリ)ノ運
 輸ノ便ヲ開キシニ由ル蓋シ會社ノ氣船ハ半月毎ニ中
 央亞米利加及ヒ太平洋ニ頻セル墨西哥ノ諸港間ニ往
 復セリ

「カピタンドウ」氏又曰中央亞米里加人及ヒ南亞米利加
 人モ我產物(珠ニ綿布)ヲ要スレ氏往復交通シテ貿易ス
 ルノ便ヲ歎ケリト見ルベシ我製造品ノ輸入ヲ待ツモ
 ノアルヲ

十年間外國及ヒ米國氣船ハ拂ヒ出シタル飛脚賃金
 ノ比較表 (國會ノ記録ニ據ル)

年 度	外國氣船會社(拂ヒシ高)	米國氣船會社(拂ヒシ高)
一八六〇	一四七〇八五三四	二八〇七一五三
一八六一	二三五七一一五四	三〇六九七〇七〇

一八六二	二八五、八八四、二三	九〇、三〇、三七七
一八六三	三三二、一八四、八〇	五五、六六三、一三
一八六四	三七一、七四〇、四三	五四、五四三、五四
一八六五	四〇五、四七九、五六	六五、五五五、五二
一八六六	四六四、九七八、六〇	一三六、〇八九、三三
一八六七	四九五、〇四九、三二	一八一、五二二、七四
一八六八	三八七、三〇四、三五	一三二、〇九五、〇九
一八六九	三三六、一六三、二四	八二、一七八、五四
合衆國驛遞局 ヨリ外國遠船へ 與へタル補助金高	三、四二一、七八三、四一	一、三八五、六三四、八九
合衆國驛遞局 ヨリ米國遠船へ 與へタル補助金高	一、三八五、六三四、八九	
十年間船へ拂ひ出シ タル船賃金ノ總高	四、八〇七、四一八、三〇	

開拓使

此表ニ據レハ外國ノ船積ヘ拂ヒシ高ハ米國船積ヘ拂ヒシ高ニ超過スルヲ殆ト三倍ナルヲ知ル

合衆國海軍省水路局ノ調査ニ係ル海程里數表

紐約ヨリ各國ニ至ル	里	
リパプール	三〇、八〇〇	
サウサンプトン	三一、四七	
ハンバルグ	三、五七七	
ハーブル	三、二六九	
リスボン	二、九四〇	
スエズ	五、二四一	
ボムベ	八、二七五	但シヨシゴトヲ通過シテ遠方ノ路次ヲ云フ
カルカッタ	九、九一〇	全
ケイプタウン	三、三六五	

開拓使

開拓使	コング河	四、四一〇	
	喜望峰	六、八〇〇	（ケルシーヨリ至ルマデ）
	ハバナ	一、一七〇	
	アスピン、カラル	二、〇一七	
	リヲ、デ、ゼニール	四、七三三	
	ビエーノスエールス	五、八二〇	
	ホルン、崎	七、〇〇〇	
	ニエウ、タルレーシヨリ各國至		
各國	ベラ、クラス	八、一七	
	アスピン、チール	一、四二七	
	ハバナ	六、二〇	
	リヲ、デ、ゼニール	五、三九〇	
	アスピン、カラルヨリ各國至ル		

開拓使	マレケーボ	六、六二	
各國	トリニタウド	一、一五三	
	ペルトム、バコ	三、二六五	
	リヲ、デ、ゼニール	四、三九五	
	シタルキースヨリ各國至ル		
	ハバナ	三、五八	
各國	キングストン	一、〇一〇	
	セント、トーマス	一、三四五	
汽船速力記ニ據ル平均里程表			
	桑港ヨリ各國至ル		里
	横濱	四、七五〇	
	上海	五、九六〇	
	香港	六、三七〇	

開拓使

開 港 場		新嘉坡	七、八二五		
		カルカッタ	九、五三五		
		サントウチ島	二、〇九二		
各 國		アウクラント	五、九二五		
		シドニー	七、二〇一		
		アカバルコ	一、八一二		
		パナマ	三、二二〇		
		カルロ	四、五八〇		
		ヴァルパレーソ	七、四四二		
		ホルン	九、一二七		
千八百七十六年六月三十日 至ル 千八百七十七年六月十四日ノ布令ニ據ル 前三ヶ月間初着ノ港ニ於テ					

未タ價額ヲ定メシテ直ニ他港ヘ積送リタル物品		ノ代價表 (官報ニ據ル)	
初着港ヨリ諸港ヘ		積 出 高	
トレドローバイラ州		一、五三八	一、一〇一
セントルイ		一六三、七一八	一七五、五九七
桑 港		四九五、八六一	四七二、四六一
ロチエストル 紐約州		九、四九五	八、六六九
プロビデンス ロードアイランド		三、二〇七	三、〇七一
ピッツバーグ		二六、六六二	一八、八三五
費拉地費		三四、七一	二九、八八一
ミルワキー		一八、五四三	一九、〇八五
ナンブリス テンネシー州		二、三七三	二、三七四
ルイスビル		一七、七一五	一六、九八六
諸 港			

諸港	紐約	初着港	積出高	
バルチモール	一、三二八、八八二			
費拉地費	二二八、三七三			
ホストン	一一一、〇四三			
ニュータルレーンズ	八一、八二七			
	六七、四九七			
合計	一八七、六二二			
ダイトロイト	三、九〇八			
クレブランド	八八、二二一			
シンシナティ	八八、二二一			
シカゴ	二、六七四			
バウワロ	二、六七四			
ボストン	一八〇、一九二			
合計	一八七、六二二			

米國ニ於ケル一箇ノ造船場ニテ竣功シタル事業表

(官ノ許可ヲ得テ掲載ス)

	千八百七十三年	千八百七十五年	一千八百七十七年九月一日至 見積高	前五年間總計
鐵板 磅	一、三六七、七二二	一、三九七、七五	五九、五五二	二、五二四、七二
曲鐵 全	一、三六、八〇	一、五九、七〇	二、五、五五	五、八八、九二
船梁 全	一、六八、四七五	一、九二、四三二	七、五、八四	二、〇、七四八
鐵釘 全	七、二五、九四	九、三九、三〇	六、八、三〇	二、五、三、六八
棒鐵 噸	二、一八八	一、四三三	一、二八五	六、八、三九〇
粗製鑄鐵 全	五、二二三	一、七、七六	一、五、六	四、五、七、三九
鋼鐵 磅	四、三、四六四	二、一、五五	七、六、六	一、八、八、二

塊銅 磅	二六五、二八	七四、九三	二四、八〇	九、五二〇	一〇、三九九	二〇、八二四	一〇、二八四、七六	二六、一五九
薄板銅同真銷 日	一〇、二五、二五	三八、九三九	六六、三九	二〇、九二一	六九、五七五	二二、六四	四〇、二〇、九三	一三六、一五八
錫 日	二二、一五二	八、八一	一八、四〇一	四、五一九	九、六四〇	一七、三五	九、九八、八一	二八、四九五
亞鉛 日	二七、八六	一六、九三	一、二八、六六	一、二七九	一、三、六四〇	九、九二	九、九八、八一	七、六六五
真銷官 鐵管 日	八、九六〇	三、〇、二四	七、七一、五三	二六、六六二	五、六、一五	一七、〇八一	三、四、七、四、五	一八、七、五一
蒸氣金 日	三、〇、六四	四、九、四七	二〇、七、七	二〇、七、七	一、一、六二一	三、四、六、六		一〇、四、五
全 真銷官		四、九、四七				三、四、六、六		一〇、九、九八
材木	二七、六四、七三〇	一六、八、五五	五、五〇、三四〇	一、五、二、七四	二、八、八、八〇	八、八、四、一	一、五、七、七、八八	六、八、八、三四
塗粉		一六、二、三		一九、一五八		一、四、一、五七		九、三、一、四八
鐵器 北 鐵旋		五、七、四、四		三、五、四、八		二、六、八、四		一、五、四、六、六六
磁石 油 廢棄物								
抽油器	一〇、七〇〇			九、六、四		五、二〇〇		四、六、五、七一
轉 轉	一〇、一四、五			八、五、四		一〇、八、〇〇		四、四、七、三、四

船	五、八、九二	九、六、九	六、二、四、五	二、四、八、三
鐵線繩	九、二、六九	六、三、七	四、六、三、五	三、三、五、九一
三三繩 (麻 種)	五、八、二〇	三、一、四、四	九、六、四、三	三、九、六、五、三
帆	五、八、七、四	八、六、六	七、八、九〇	二、六、一、二、二
滑車	三、一、八、七	一、四、一、六	三、九、八、七	一、七、八、一、五
蒸氣 管 瓦	八、四、六	八、九、一	六、一、七、六	六、一、九、八、八
斯管 瓦 斯管 瓦				
鉛 鐵 鏈	一、四、五、九、三二	一、二、一、八、九	一、二、〇、一	二、四、九、七、五、四
石 炭 噸	八、六、六	四、七、六、二	七、四、七、五	四、七、二、二
鉛	五、五、二、八	八、八、七、八	四、八、七、二	二、六、五、五、一
鉛 管	七、四、〇、五	一、三、三、〇〇	一〇、八、五〇	六、五、二、三、九
造船場 改正 加便 及 全 車 屬 板 製 造 車 架 造 費	一、五、七、四、八、五	一、一、四、九、三		四、四、五、五、五

開 石 使

雜物燈臺兩 脚規硝子檮 卷輓轆	三七、二四	三六、〇八	三六、九六	一九九、四八
工夫役料	一七、四六六	一三、八一九	九四、二六四	七三、九七三
總計	五八、八四四	二七、六七四	一七、四六七	一四、八〇、一四七

千八百七十五年及七十六年ニ終ル兩會計年度中毎月
合衆國ト外國トノ貿易ニ係ル帆船噸數比較表

入港外國汽船噸數	三、三九、五三	七、五一。
合計	四、四九、五六六	
出港米國汽船噸數	一、〇〇、二六二	二、四九
全外國汽船噸數	三、三七、九一九	七、五一
合計	四、四八、一八一	
入港米國帆船及汽船	四、七二、九四九	二、七八三
全外國帆船及汽船	一、二二、八三六五	七、二一六
合計	一六、九三、三一四	
出港米國帆船及汽船	四、八三、二六七七	二、八三
全外國帆船及汽船	一、二二、四〇、六一八	
合計	一七、〇七、三、二九五	
六百零九年入港米國船舶噸數總計	三、四〇、二、六六八	三、八八八
全外國船舶噸數總計	五、三四七、六九四	六、一一二

開 港 便

增額	八、七五、三六二	
全年米國船舶噸數總計	三、四〇、二、六六八	
全七十六年米國船舶噸數總計	四、七二、九四九	
增額	一、三〇、九、二八一	三、八四七
全七十九年外國船舶噸數總計	五、三三七、六九四	
全七十六年外國船舶噸數總計	一、二二、八、三六五	
增額	六、八七、〇六七	二、八四九
全年噸數總計	一六、九三、三一四	
全六十九年噸數總計	八、七五、三六二	
增額	八、一七九、九五二	
此七十年間，增額中外國噸數，增加高	六、八七、〇六七	八、三九九
全米國噸數，增加高	一、三〇、九、二八一	一、六〇。

開 港 便

千八百七十五年ヨリ全七十 六年ニ至ル米國噸數ノ 減額	五八三、六二一		
米印高ニ付テ使用セシ 外國水夫	三五〇、〇七〇	六、九五二	
全米國水夫	一五三、四八〇	三、〇四八	

左ノ年限間中海外諸國ヨリ合衆國ノ諸港ニ入津セ
シ内外船舶ノ噸數 (政府ノ記録ヨリ抄出ス)

會計年度	亞米利加噸數	外國噸數	亞米利加噸數超過 外國噸數超過
一千八百三十年	九六七、二二七	一三、九〇〇	八二五、三二七
全 四十年	一、五七四、九四六	七一二、三六三	八六四、五八三
全 五十年	二、五七三、〇一六	一、七七五、六二三	七九七、三九三
全 六十年	五、九二一、二八五	二、三五三、九一八	三、五六七、三六七

全 六十年	五、〇二三、九一七	二、二七、五五四	二、八〇六、三六三	
全 六十二年	五、一七、六八五	二、二四五、二七八	二、八七二、四〇七	
全 六十三年	四、六一四、六三四	二、六四〇、三七八	一、九七四、三二〇	
全 六十四年	三、〇六六、四三四	三、四七一、二一九		四〇四、七六五
全 六十五年	二、九四三、六六一	三、二一六、九六七		二七三、三〇六
全 六十六年	三、三七二、〇六〇	四、四一〇、四二四		一、〇三八、三六四
全 六十七年	三、四九五、〇五二	四、三一八、六七三		八六三、六二一
全 六十八年	三、五五〇、五五〇	四、四九五、四六五		九四四、九一五
全 六十九年	三、四〇二、六六八	五、三四七、六九四		一、九四五、〇二六
全 七十六年	四、七一一、九四九	一、二、二一八、三六五		七、五〇六、四一六

米印ニ依テ外國噸數ノ著シク増加シタルヲ見ルベシ
前七年間ニ二割八分ノ増加アリ而シテ南北戦争以
來ハ七割七分ノ増加ナリ外國水夫ニ職ヲ授クル

開
三十五萬人ニシテ我水夫ノ業ヲ失フ者亦三十五萬
人ナリ我筆生職工ノ失業ノ實況ヲ知ラント欲セハ
宜シク前條諸項ニ就テ見ルベシ

